

熊野古道アクションプログラムの改定に係る第1回検討会議 事項書

日時：令和7年11月18日（火）

13時30分～15時30分

場所：三重県立熊野古道センター 映像ホール
尾鷲市向井12-4

1 開 会

あいさつ 熊野古道協働会議代表世話人 速水 亨 氏

2 議 題

(1) 熊野古道アクションプログラム改定の進め方等について（事務局説明）

(2) 熊野古道アクションプログラム改定内容について（意見交換）

- ① 「めざす姿」について
- ② 「活動指針と具体的な取組」について
- ③ 次期アクションプログラムの名称について

3 閉 会

あいさつ 熊野古道協働会議代表世話人 速水 亨 氏

◎ 今後のスケジュール（予定）

令和7年 12月下旬 第2回検討会議

- ・次期アクションプログラム中間案の提示、内容検討

令和8年 1月下旬 第3回検討会議

- ・次期アクションプログラム最終案の提示、内容検討

3月中旬 第2回熊野古道協働会議

- ・次期アクションプログラム最終案の提示、協議

3月下旬 次期アクションプログラムの策定

【配布資料】

- ・委員名簿
- ・資料1：熊野古道アクションプログラムの見直しに係るアンケート 集計結果
- ・資料2：熊野古道アクションプログラムの改定に係る関係者ヒアリングの結果
- ・資料3：熊野古道来訪者調査報告書（一般社団法人東紀州地域振興公社）
- ・資料4：令和7年度第1回熊野古道協働会議 議事概要
- ・資料5：「活動指針と具体的な取組」について（案）

- ・参考資料1：熊野古道アクションプログラムの改定について
- ・参考資料2：熊野古道アクションプログラムの経緯について（参考資料）
- ・参考資料3：三重県熊野古道活用プランの概要
- ・参考資料4：熊野古道アクションプログラムの見直しに係るアンケート
- ・参考資料5：熊野古道アクションプログラムの見直しにかかるアンケート
意見等一覧

- ・熊野古道アクションプログラム3追記編

熊野古道アクションプログラムの改定に係る検討会議 委員

○学術分野（2名）

速水 亨 氏 (速水林業 代表)
三石 学 氏 (熊野市文化財専門委員長)

○市民活動分野（4名）

西尾 寛明 氏 (熊野古道語り部友の会 会長)
玉津 充 氏 (紀北町熊野古道連合会 会長)
西山 光雄 氏 (二木島峠・逢神坂峠世話人会 代表)
奥村 清司 氏 (熊野古道伊勢路を守る会 会長)

○観光分野（2名）

湯浅 しおり 氏 (協働組合 尾鷲観光物産協会 代表理事)
加藤 仁志 氏 ((一社) 東紀州地域振興公社 事務局長)

○行政関係機関（14名）

<市町>

文化財保護担当課 (尾鷲市、熊野市、多気町、大紀町、紀北町、御浜町)
観光担当課 (尾鷲市、熊野市、多気町、大紀町、紀北町、御浜町)

<県>

地域連携・交通部 南部地域振興局 東紀州振興課
教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

○オブザーバー（12名）

<市町>

文化財保護担当課 (伊勢市、玉城町、大台町、紀宝町)
観光担当課 (伊勢市、玉城町、大台町、紀宝町)

<県>

松阪地域防災総合事務所
南勢志摩地域活性化局
紀北地域活性化局
紀南地域活性化局

計34名

熊野古道アクションプログラムの見直しにかかるアンケート 集計結果

資料 1

対象者：熊野古道関係者

配布数：222件

回答数：72件

実施期間：令和7年10月3日～令和7年10月22日

1 「熊野古道アクションプログラム3追記編」の3つの目標についての評価

(1) 目標1 「価値に気付く」

①全体評価

目標1「価値に気づく」取組についての全体的な評価は「前進した」「やや前進した」との回答が40%ありますが、一方で「変化なし」との回答が31%あります。

②各項目の評価

- | | | | | |
|---------------|----------------|-----|--------|-----|
| (ア) 本質の追及 | 「前進した」「やや前進した」 | 32% | 「変化なし」 | 35% |
| (イ) 地域活動や社会教育 | 「前進した」「やや前進した」 | 50% | 「変化なし」 | 27% |
| (ウ) 学校教育での学び | 「前進した」「やや前進した」 | 27% | 「変化なし」 | 27% |
| (エ) 情報発信 | 「前進した」「やや前進した」 | 35% | 「変化なし」 | 41% |
| (オ) 抛点施設の活用 | 「前進した」「やや前進した」 | 40% | 「変化なし」 | 26% |

③個別の意見

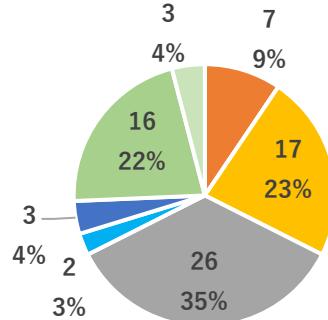
個別の意見としては、「20周年で取組がとても前進した」との意見がある一方で、「熊野古道の価値を学ぶ機会がほとんどない」「本質的価値の解釈が硬直的」「次の10年に向けて内外に向けた価値に気づくための取組を強化すべき」などの意見があります。

④今後の取組方向

今後は「価値に気付く」ための取組を「強化する」「やや強化する」ほうが多いとの意見が76%を占めています。

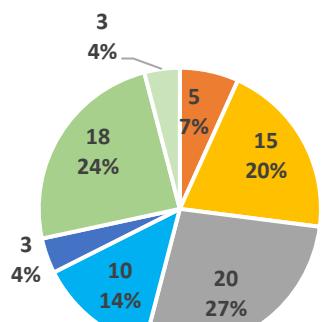
① A P 3追記編策定後、今まで、「価値に気づく」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。

(ア) 本質の追及（伊勢路に係る歴史や伝承等の研究の継続、大学等との連携による研究の強化、取組内容や成果の情報発信、スペイン・バスク自治州等との連携など）



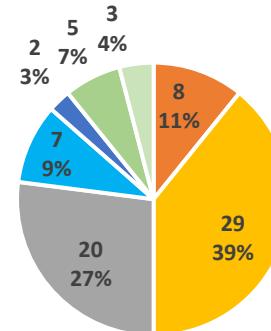
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(ウ) 学校教育での学び（学校行事において古道を歩き学ぶ機会の充実など）



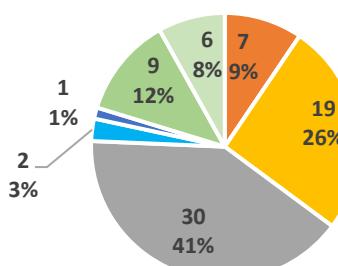
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(イ) 地域活動や社会教育（地域住民が伊勢路や地域の歴史・文化を学んだり歩いたりする機会を増やす取組など）



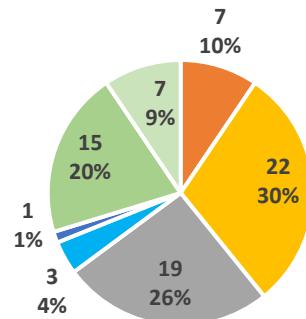
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(エ) 情報発信（インターネットや出版物による本質的な価値の情報発信）



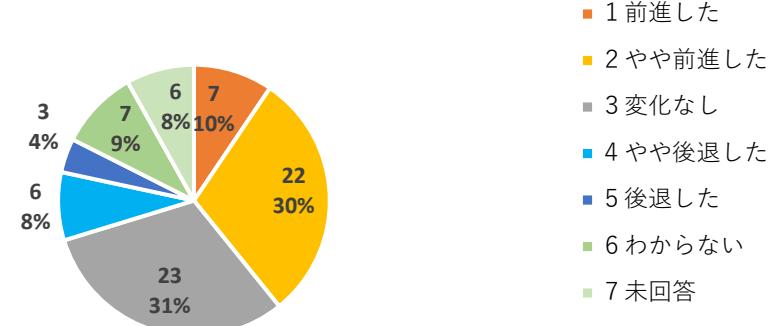
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(才) 拠点施設の活用（古道センターでの情報・資料の収集や情報発信、来訪者と地域住民との交流、周辺地域や関係施設との連携など）



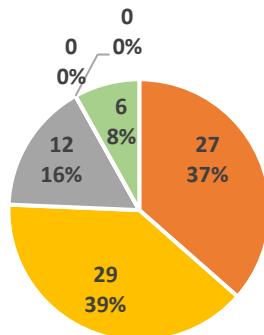
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

◆ 「価値に気づく」ための取組の全体的な評価



- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

② 今後は「価値に気付く」ための取組をどうして
いくのが地域にとって良いと思われますか。



- 1 強化する
- 2 やや強化する
- 3 現状維持
- 4 やや縮小する
- 5 縮小する
- 6 未回答

③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。主な意見は次のとおりです。

○提案・要望に関する意見 10件

- ・昨年度（世界遺産登録20周年目の年）はとても「価値に気づく」ことに前進したと感じていたのですが、行政関係者の異動などの職員環境変化によっては昨年度まで出来上がっていたもの、進んでいたものが初期の段階に戻ってしまうようなこともあるため、強化は今後もしてほしいと感じています。
- ・地域にとっては、昔から当たり前の環境であり、現状、興味を示さない方が多いと感じている。しかし、ふとした瞬間・きっかけにより、興味を示すようになる方がいるので、今後も地域の方にとっても価値があると感じていただく取り組みは重要。地域に愛される熊野古道でなければ、外部から見ても価値は下がってしまうと考えている。
- ・20周年で全体的に進んだが、過ぎた今、追加登録を考える上でも、世界遺産の価値基準への適合、その自然、信仰、文化を学ぶ機会が必要である。

○課題提起に関する意見 16件

- ・熊野古道についての価値や学ぶ機会がほとんどないため、子どもや親達、そもそもっと高齢の方々までが保存の必要性を理解していない。
- ・熊野古道を保全し、維持していくためには、古道を利用してくれる人が沢山いる事が大切です。そのためには、熊野古道の普遍的な価値を高める必要があります。
- ・本質的価値の解釈が硬直的で正しい価値が認識できていると感じられない。伊勢路が最も輝ける価値認識とは現在も名残をとどめる江戸時代の巡礼路（桑名→伊勢→熊野→西国（岐阜））を三重県北部から一体として評価すべきであると考えている。
- ・昨年世界遺産登録20周年という事で各地でイベントが行われました。周年を終えた今、次の10年後に向けて、内外に向けた「価値に気付く」ための取組を強化する必要があると考える。
- ・長期的に継続して、周知・普及活動を続けていくことが重要。

○情報共有・その他 25件

- ・地域の高校生に保全活動を通じて熊野古道の価値に気付いてもらい、伝えていく。この活動を継続していきたい。
- ・地域住民が価値を気付くことで、次世代にも繋がっていくと考える。

1 「熊野古道アクションプログラム3追記編」の3つの目標についての評価

(2) 目標2 「守り伝える」

①全体評価

目標2「守り伝える」取組についての全体的な評価は「前進した」「やや前進した」との回答が35%ありますが、一方で「変化なし」との回答が27%あります。

②各項目の評価

- (ア) 守り伝える体制・・・・・・「前進した」「やや前進した」 36%、「変化なし」 30%
- (イ) 啓発活動・・・・・・「前進した」「やや前進した」 35%、「変化なし」 34%
- (ウ) 文化財保護・・・・・・「前進した」「やや前進した」 31%、「変化なし」 38%
- (エ) 文化的景観の保全・・・・「前進した」「やや前進した」 33%、「変化なし」 34%

③個別の意見

個別の意見としては、「教育現場で歴史や社会的な意義にもっと現地で関わってもらう取組をしてほしい」「北部地域の保存会では高齢化が進み、若い世代が入会してこない」、「地域外からも含め、担い手を育成や確保していく必要がある」などの意見があります。

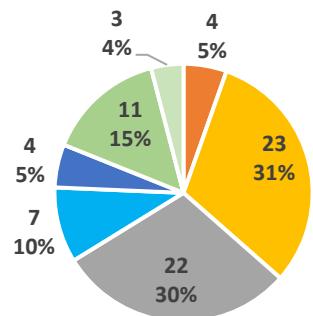
また、語り部の取組については「語り部友の会は旅行会社等から高い評価をいただいている」「語り部養成講座により新規人材の発掘や、後継者の世代交代が進んでいる団体もある」などの意見があります。

④今後の取組方向

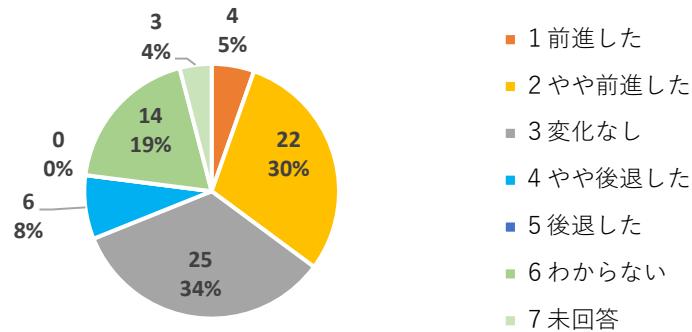
今後は「守り伝える」ための取組を「強化する」「やや強化する」ほうが良いとの意見が70%を占めています。

① A P 3追記編策定後、今まで、「守り伝える」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。

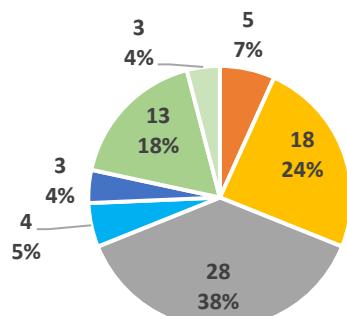
(ア) 守り伝える体制（保全状況の見回りや情報収集および提供、保全団体・語り部などの担い手確保、関係団体間の連携、地域内外からの支援体制づくり、保全活動に係る資金確保）



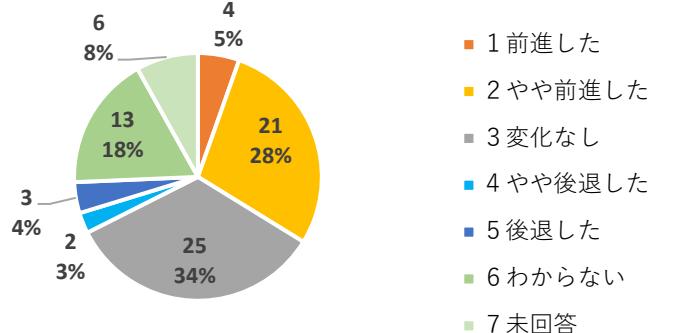
(イ) 啓発活動（活動の顕彰、知る・体験する機会の充実）



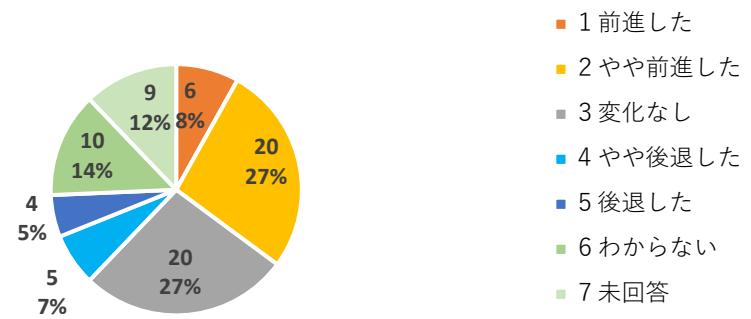
(ウ) 文化財保護（文化財の適切な保存・管理、災害時の迅速かつ的確な対応）



(エ) 文化的景観の保全（良好な景観の維持・形成、知識・理解の向上のための有識者を招いたセミナー開催等、他の世界遺産登録地域との情報交換など）



◆ 「守り伝える」ための取組の全体的な評価



② 今後は「守り伝える」ための取組をどうして
いくのが地域にとって良いと思われますか。



③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。主な意見は次のとおりです。

○提案・要望に関する意見 6件

- ・教育現場で歴史や社会的な意義にもっと現地で関わってもらう取り組みをして欲しい。地域の人たちともっと関わって欲しい。
- ・若い世代、子供達へより知ってもらうための誰もが参加しやすいイベントの強化

○課題提起に関する意見 19件

- ・北部地域の保存会ではどんどん高齢化が進むが、若い世代が入会してこないという状況が続いている、組織が弱体化する一方になっている。
そして周辺では風力発電設備や太陽光発電設備が増えてきて、地域特有の文化的景観をも破壊しているのが現状です。
行政や企業、住民も含めて三重県の文化を守り伝えるという方向性にシフトしないと伊勢路特有の文化は守れないのではないかと思います。
- ・世界遺産である熊野古道を維持するためには、守り伝えることは基本中の基本と考えるが、担い手の確保の課題があり、現状維持も厳しい面があると思うが、守り伝える取り組みについては、今より一步前進させる必要はあると考えている。
- ・何も活動しなければ劣化してしまう。持続的に保護・保全をしていくためには地域の中だけではなく地域外からも含め、担い手を育成や確保していく必要があると考える。
- ・分科会で、保全について話し合ったことが良かったが、決めたことを進めていく必要がある。
近年、イノシシによる掘りおこしが多く、対策しなければならない。

○情報共有・その他 20件

- ・熊野古道語り部友の会は旅行会社等から高い評価をいただき、依頼も絶えない。語り部の養成も続けていきたい。
保全活動のサポートーズクラブ参加者を増やしていく。
- ・熊野古道の語り部育成及び保全活動については、高齢化のため退会や活動休止に至っている団体がある一方で、語り部養成講座により新規人材の発掘や、後継者への世代交代が進んでいる団体もある。
- ・一斉クリーンアップ作戦の継続的な実施等により熊野古道伊勢路に関心・愛着を持つ人を増やしていくため。
- ・地元高校生を対象に保全活動体験を実施したり、来年度から熊野古道教育のカリキュラム導入に向け活動している。

1 「熊野古道アクションプログラム3追記編」の3つの目標についての評価

(3) 目標3 「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」

①全体評価

目標3「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」取組についての全体的な評価は「前進した」「やや前進した」との回答が39%ありますが、一方で「変化なし」との回答が27%あります。なお、各項目の評価では、「前進した」「やや前進した」が約50%ある項目が多くみられます。

②各項目の評価

- (ア) 古道沿いの環境整備・・・「前進した」「やや前進した」 49%、「変化なし」 35%
- (イ) 情報発信・・・「前進した」「やや前進した」 46%、「変化なし」 33%
- (ウ) 踏破の推進・・・「前進した」「やや前進した」 49%、「変化なし」 27%
- (エ) 地域の賑わい創出・・・「前進した」「やや前進した」 51%、「変化なし」 30%
- (オ) 地域間連携・・・「前進した」「やや前進した」 34%、「変化なし」 38%

③個別の意見

個別の意見としては、「トイレは洋式への更新が行われ、バリアフリーが進んでいると感じる」との意見がある一方で、「地域間の連携について全然進展が感じられない」「熊野古道に来訪してもらう交通手段や仕掛けづくりが不十分」などの意見があります。

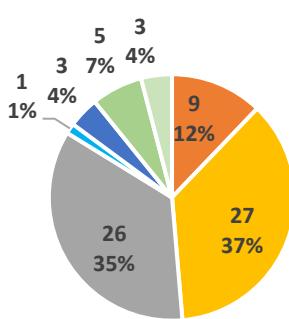
イベントについては「参詣道の本質を体感できる形のイベントが地域にとって良いと思う」「地元の人々が紡ぎ続けてきた文化、伝統、生業等の物語を来訪者に伝え、来なければ伝わらない五感へアプローチする等の施策も重要」などの意見があります。

④今後の取組方向

今後は「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」ための取組を「強化する」「やや強化する」ほうが良いとの意見が72%を占めています。

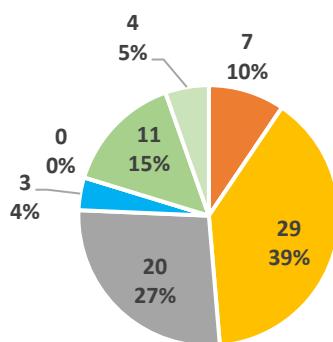
① A P 3追記編策定後、今まで、「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。

(ア) 古道沿いの環境整備（統一感のある案内標識等、トイレ・休憩施設等の整備、伊勢路のマップ作成などの情報提供、バリアフリーの情報調査など）



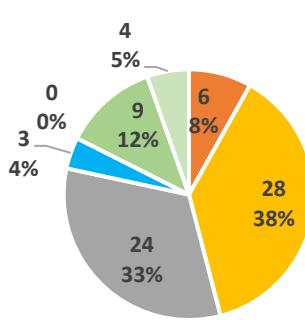
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(ウ) 踏破の推進（踏破向けの情報提供、踏破ウォークイベント、スタンプラリー、歩く旅人の交流促進など）



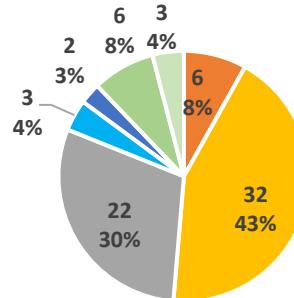
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(イ) 情報発信（SNS、アプリなどを活用した情報発信、古道にまつわる伝承や文化財についての情報提供など）



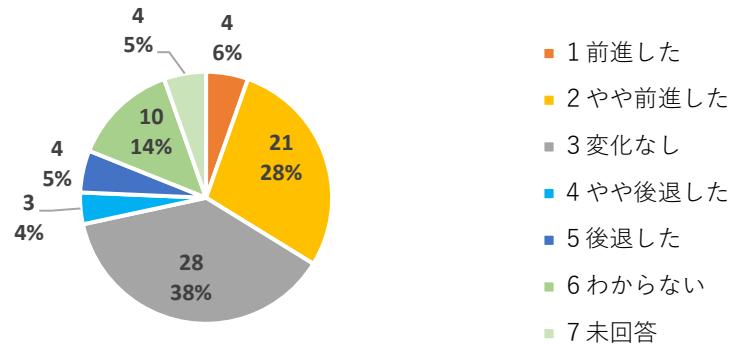
- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

(エ) 地域の賑わい創出（周遊スポットや体験プログラムの情報発信、特産品・名物の発掘・創出、おもてなしの醸成、宿泊・休憩施設の充実・PR、交通アクセス・二次交通の充実、海外に向けた情報発信や受入体制の充実など）

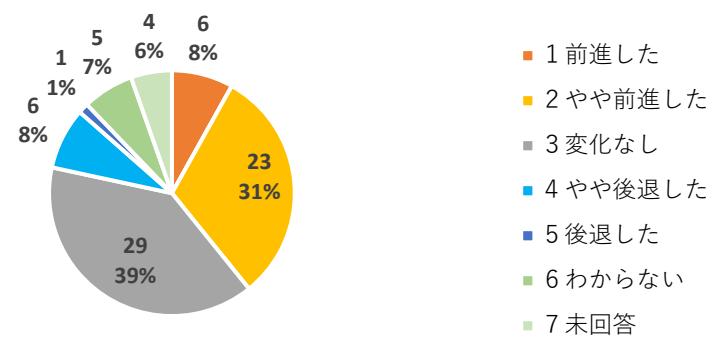


- 1 前進した
- 2 やや前進した
- 3 変化なし
- 4 やや後退した
- 5 後退した
- 6 わからない
- 7 未回答

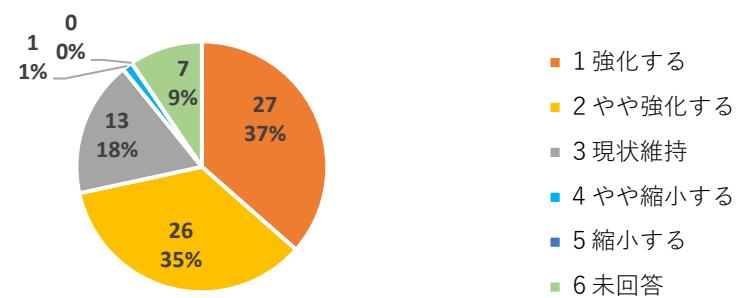
(オ) 地域間連携（伊勢から東紀州地域までの団体間・行政間の連携強化、三県の連携強化）



◆ 「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」ための取組の全体的な評価



② 今後は「伊勢路を結ぶ」ための取組をどうしていくのが地域にとって良いと思われますか。



③ ②でそうお答えになった理由は何ですか。主な意見は次のとおりです。

○提案・要望に関する意見 10件

- 案内標識は「平成の一里塚」以外、統一感を感じられるものがまだ多くない。トイレは既存の物は洋式便器への更新が行われ、バリアフリー化が進んでいると感じるが、トイレ自体が少ないので、可能な場所から設置をお願いしたい。
- 伊勢路には続きがあります。西国巡礼道として名を変え、和歌山、大阪など他府県へともつながります。いずれはこういった他府県との連携も徐々にできていければ幸いです。
- 伊勢路の本宮道などのウォーキング後、そのまま本宮大社にバスで向かうなど、参詣道の本質を体感できる形のイベント実施が地域にとって良いと思う。

○課題提起に関する意見 12件

- 地域間の連携について、全然進展が感じられない。むしろ後退しているとも思える。それは主体となった部所がなく、中心となる人がいなければからだと感じる。（南部、北部、又は南北の連携も通して）
- 自治体間(三重県も含めた)ができる具体的な連携を実施する必要がある。
- 熊野古道に来訪してもらう交通手段や仕掛けづくりが不十分であり、市町単独で集客を目指すよりも古道沿線地域との連携を通じた取組が必要であるため。
- 強化してより多くの人が歩いてこそ、路が生かされると思うけれど、今、中辺路がオーバーツーリズムである事を受けて、そこから長期的に何をすべきかを学んだうえで取り組みを始めるべきだと思うから。

○情報共有・その他 22件

- 旅行や観光だけでなく、地域との結びつきのある"旅"や"体験"なども、これからはもう少し比重を置いた方が良いと思うから。
- 来訪者に一度だけではなく、リピートしていただきたいと強く思う。伊勢路は守られてきたい素晴らしい景観が残っているが、景観だけでなく、地元の人々が紡ぎ続けてきた文化、伝統、生業等の物語（ストーリー）を来訪者に伝えることにより、來なければ伝わらない五感へのアプローチを拡散していただく等の施策も重要と考える。
- 伊勢路は伊勢参宮と一体化してとらえるのが伊勢路にとって最も得策であるし、歴史上そうなのである。

2 今後の取組方向について

これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのようなことに取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。

また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。

主な意見は次のとおりです。

○提案・要望に関する意見 23件

- ・地域を超えた取組を増やす (例) 三重一和歌山連繫ツアー、伊勢路の風伝峠一本宮道一本宮大社とか、参詣道であることが分かるストーリーをもったツアーにする
- ・同じ古道沿線であっても自治体規模や予算・体制の差異から生じる古道の保全に対する認識の温度差が小さくなるよう定期的なミニ会議を持ち、行政間の連携強化を図るべきと考える。
- ・熊野参詣道伊勢路は伊勢参宮の後、西国巡礼に赴いた道という認識をきちんと県下に広める。
- ・資金確保の手法が多様化する中、行政が予算確保に努めることはもとより、行政以外の主体によるクラウドファンディングのさらなる活用も注力すべきと考える。
- ・持続可能な保全体制づくり、保全活動の商品化、古道周辺のスポット（便石山など）の受入体制整備、追加登録の推進
- ・熊野古道同士（伊勢路、中辺路、大辺路、小辺路）の連携、相互の広報活動。宿泊施設の確保、保全団体との保全活動の紹介や体験ツアーの造成。

○課題提起に関する意見 15件

- ・熊野古道伊勢路を、世界の文化遺産として保存することを約束したのだから、保存できる体制をもう一度見直すべきだと思う。
- ・若い世代、特に地域の高校生に価値を気づいてもらい、守り伝えていく必要があると感じる方を一人でも増やしていく必要があり、学校と連携して、一時的な体験だけではなく、歴史から保全まで一連の地域の教育プログラムにきちんと位置付ける取り組みが必要だと考える。
- ・今後取り組むべきことは、地域の文化を知る機会を増やすことである。地域にあっても知られていない文化財や行事があると考えられるため、知る機会を増やすことが必要だと思う。

○情報共有・ご意見 11件

- ・各峠をまもる会の会員と共に保全等を頑張る。
- ・常に目に見える形ですすめることが、意識高揚につながると思う。情報提供を多くし合う。

3 その他

「熊野古道アクションプログラム」や熊野古道、世界遺産についてご意見やご感想がございましたらご記入ください。

○提案・要望に関する意見 10件

- ・2の続きのようになるが、熊野古道で稼いで暮らせる若者を多くつくっていかないと、今後は保全整備が難しくなるので、仕組みづくりが必要だと思う。
- ・せっかく三重県が令和元年に「世界遺産の巡礼道を生かした協力・連携に関する覚書」を締結しているのですから、バスル地方を通る巡礼道「北の道」との連携をもっと強化していく仕組みを作成してほしいと切に願います。
- ・熊野古道の成り立ちをふまえるとその保全を恒常的なものにするためには、自治体間の具体的な連携が必須と考える。
- ・伊勢路への更なる誘客が期待される世界遺産登録25周年の令和11年までに、保全に対する体制を強化していきたい。

○課題提起に関する意見 7件

- ・アクションプログラムでは、参加する全員が一定の方向をめざして取り組みや活動をしていかなければいけない。
しかし、全員が目指すべき方向性の部分で「伊勢路の本質」という抽象的な表現が出てくるため、統一した方向で取組ができるないと感じる。本質には様々な解釈ができてしまう。何度も出すのが煩わしいならば、本質の定義は何かをどこかに注記しておけばよいのではないかかと思う。
- ・各地域、各分野の理解者が一人減り二人減りして、それぞれの活動が行き詰まってしまっている今、「熊野古道や世界遺産がなくてもこの地域は変わらない」「誰かがしてくれる」「どうにかなる」…という考え方をなくすための取り組みが必要となってきているのでは。

○情報共有・ご意見 19件

- ・世界遺産としての知名度は欧米でも上がってきている。アクセスや滞在に不安を感じない、ゆっくり長く滞在できる熊野古道と周辺にしていきたい
- ・伊勢路全体の保全を統括する組織づくりについて、紀南エリアの組織結成に向け一部で動いたが、未結成場所や人材不足、各団体の活動方法や意見が合わない等の問題があり、進展が難しい状況である。

※高校生へのアンケートについて

対象者 : 熊野青藍高等学校 JRC（青少年赤十字）部

配布数 : 35件

回答数 : 8件

(1) 以前よりも、熊野古道の文化的景観としての価値を理解し、日常的に関わることができているか。

また、以前よりもさらに、地域の歴史や文化を学ぶことができているか。

- できている・・・・・ 12.5%
- ややできている・・・ 25%
- 変わらない・・・・・ 62.5%
- あまりできていない
- できていない

(2) 熊野古道伊勢路を守りそして伝える体制は、近年どのように変化してきていると思うか。

- 良くなった・・・・・ 37.5%
- やや良くなった・・・ 37.5%
- 変わらない・・・・・ 25%
- やや悪くなった
- 悪くなった

(3) AP3追記編策定後、今まで、「伊勢路を結ぶ、地域を活かす」という目標に対して、地域はどのように変化してきたと思われますか。

- | | |
|---------------|---------------------------------------|
| (ア) 古道沿いの環境整備 | 「やや前進した」50%、「変化なし」50% |
| (イ) 情報発信 | 「前進した」37.5%、「やや前進した」37.5%、「変化なし」25% |
| (ウ) 踏破の推進 | 「やや前進した」62.5%、「変化なし」37.5% |
| (エ) 地域の賑わい創出 | 「やや前進した」62.5%、「変化なし」37.5% |
| (オ) 地域間連携 | 「やや前進した」62.5%、「変化なし」25%、「やや後退した」12.5% |

※高校生へのアンケートについて

(4) これまでの社会情勢の変化をふまえ、今後どのように取り組めば、地域が良い方向に向かうと思いますか。

また、活動グループ、住民、事業者、行政それぞれで、または協働して、どのような取組に力点を置くべきとお考えですか。

- ・SNS(Instagram、TikTok等)のインフルエンサーヤ、有名人とコラボし熊野古道や周辺をPRする。

例えば、ドラマや映画のロケ地、InstagramやTikTokの撮影地として熊野古道を利用してもらうことで熊野古道をより有名にし、熊野古道の魅力や現在の状況を多くの人に知ってもらうことで、歴史的価値を残した形での存続をすることができると思います。一方、ロケ地・撮影地として使用してもらうと聖地巡礼などで訪れる観光客の方のマナーやモラルに関する問題が発生するおそれがあるため、その問題が起きないようにマナーの周知、近隣住民への説明、近隣住民の協力が必要となってくるので、そこもSNSを活用して行けばいいと思います。

- ・熊野市や近隣地域出身の有名人のイベントを行う。熊野古道にゆかりのある有名人のイベントを開催しそのファンの方に熊野古道を知ってもらうことで存続につながっていくと思う。マナーに関してなどは、その方に周知してもらうことでファンの方にマナーを守ろうと考えてもらうことができるのでいいと思います。

- ・外国人向けのボランティアイベントの開催

- ・熊野古道の休憩所をきれいにしたり、SNSでもっと宣伝したらいいと思います。

- ・最近は、SNSで「#自然界隈」（※）で、若者が熊野市を訪れている投稿を見ることが増えたので、熊野の自然を活かして熊野古道を"修行の道"から、自然で心癒される自然界隈の聖地にすればいいと思う。

- ・若者をターゲットに、古道近くに地元の食材やスイーツを楽しめるチルい（※）雰囲気の古民家カフェなど、「自然と整う時間」が体験できる場所を作る。

※ 自然界隈・・・山・川・海・森などの自然のある場所を舞台に、風景や体験をSNS上で共有し、共通の世界観を楽しむ人々の集まりや文化を意味する

※ チルい・・・心が落ち着き、リラックスして心地よい状態

資料2

熊野古道アクションプログラムの改定に係る関係者ヒアリングの結果

熊野古道アクションプログラム改定を進めるにあたり、熊野古道伊勢路の関係者を対象にヒアリング調査を実施し、これまでの取組の評価や課題、熊野古道伊勢路のあるべき姿、今後強化すべきこと、新たに取り組みたいことなどを把握した。

1. 調査概要

(1) ヒアリング実施期間 令和7年10月～11月

(2) ヒアリング対象者 14名

① 熊野古道関係者

保全団体関係者（東紀州地域） 松田 卓也 氏（だんだんの会）

保全団体関係者（東紀州地域以外） 出口 真市 氏（三瀬坂峠を守る会）

観光事業者 内山 裕紀子 氏（くまの体験企画）

② 熊野古道沿線地域の県議会議員

三重県議会議員 谷川 孝栄 氏

三重県議会議員 東 豊 氏

三重県議会議員 藤根 正典 氏

三重県議会議員 西場 信行 氏

三重県議会議員 松浦 慶子 氏

三重県議会議員 中瀬 信之 氏

三重県議会議員 村林 聰 氏

③ 交流拠点関係者

熊野古道センター 宮本 秀男 氏（センター長）

里創人熊野俱楽部 隈上 雅志 氏（支配人）

④ 熊野古道協働会議関係者

協働会議アドバイザー（皇學館大学名誉教授） 櫻井 治男 氏

⑤ 県外有識者

（一社）田辺熊野ツーリズムビューロー 武田 国貴 氏（事務局長）

(3) 実施者 三重県東紀州振興課

(4) 意見の概要 別紙のとおり

熊野古道伊勢路関係者ヒアリング項目

このたびは、熊野古道アクションプログラムの改定にかかるヒアリングにご協力いただきこととなり、誠にありがとうございます。

下記のことを中心ヒアリングをさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

●ご自身が感じる熊野古道伊勢路の魅力について

●これまでの熊野古道伊勢路の保全・活用における取組を振り返っての評価やご感想

- ・前進している点、その成果について
- ・後退している点、その要因や課題について

●ご自身が思う熊野古道と周辺地域のあるべき姿、理想の姿について

●令和4年3月（「熊野古道アクションプログラム3追記編」策定）以降の社会情勢の変化（別添「参考資料」を参考にしてください）を踏まえ、今後10年先までの熊野古道伊勢路のために必要なこと、強化すべきこと

●ご自身が新たに取り組みたいと考えていることや、成果をあげている事例（他地域を含めて）などがありましたら教えてください。

（活動事例）

- ・地域の保全活動等における担い手確保・育成の取組
- ・保全活動に係る活動資金の確保
- ・地域住民への理解（価値の認識）の浸透
- ・他地域への有効なPR方法
- ・保全と地域振興の両立、古道を活用した地域活性化
- ・文化的景観の保護とバリアフリー推進の両立 など

●その他、行政や他の関係者・団体へのご提案や期待することなどがございましたら、お聞かせください。

◎ 熊野古道アクションプログラムの改定に係る関係者ヒアリング 意見の概要

別紙

1	これまでの熊野古道伊勢路の保全・活用における取組を振り返っての評価や感想
(1)	前進している点、その成果
①	保全活動の安定的運営 4 件
・	一定の会員数の確保と定期的な活動が行えている
・	保存会が組織として運営できる体制となれた
・	保全活動のスケジューリングを行い参加者が集まれる工夫を行っている
・	人員や資金面での支障が無く保全活動が行われている
②	誘客促進が図られている 4 件
・	集団から個人への受入体制が徐々に進んでいる
・	20周年を経過しても来訪者が多くいる
・	モニターツアーを実施したこと
・	様々な手法での情報発信がされていること
③	語り部の運営改善 1 件
・	語り部の料金体系が見直され峠ごとに設定されることで公平性ができた
④	二次交通のアクセス改善 1 件
・	峠道周辺のタクシー事業の実施などアクセスへの配慮がみられる
⑤	その他（熊野古道協働会議が継続） 1 件
・	熊野古道協働会議が継続されていること
(2)	後退している点、その要因や課題
①	開発行為などによる景観への影響 1 件
・	太陽光パネルの設置などが熊野古道の景観に影響を与える懸念がある。
②	保全団体の高齢化等に伴う活動の低減 8 件
・	保全団体の高齢化に伴う活動の低減
・	若い人に入会してもらうことが課題
・	保全団体の高齢化がみられる
・	保全体制が充分でない
・	保全の補助金を市町に有効活用してもらえるよう、県と市町の関係づくりを密にする必要がある
・	保全活動の財源確保が必要
・	過疎化・高齢化が保全活動にも影響が出ている
・	熊野古道サポーターズクラブから自主的な広がりの活動が見いだせない
③	誘客の課題 4 件
・	峠道のツアーフィーの固定化・マンネリ化
・	独立で行くには交通手段がわかりにくい
・	熊野古道は和歌山のイメージが強く、伊勢路のストーリー性が弱い
・	インバウンド誘客や案内標識について組織を超えた連携が薄い（観光部、県土整備部）
④	バリアフリーの課題 2 件
・	バリアフリーに係る情報提供が不足している
・	バリアフリーに関して古道に通じる林道の整備が不足している
⑤	観光インフラの課題（トイレ・宿泊施設・二次交通等） 7 件
・	トイレの整備などのハード整備が弱い
・	宿泊施設の整備が充分でない。農家民宿などの小規模のものや高付加価値のホテルも大事
・	地元の飲食業と宿泊業が地域で継続して経営できる仕組みが必要
・	トイレの老朽化、洋式化への対応が必要
・	トイレの老朽化、洋式化の課題がある
・	過疎化により、魅力ある飲食店が減少し店舗の閉店などの課題がある
・	二次交通の利便性に課題がある
⑥	語り部養成の課題 1 件
・	語り部の高齢化および東紀州以北への人的・予算的な配慮が不足している
⑦	クマの出没による課題 1 件
・	クマの出没が課題

2 熊野古道と周辺地域のあるべき姿、理想の姿

①本質的価値が理解されていること	2 件
・伊勢路の本質的価値がアピールされていること	
・道としての機能が維持され、地元住民にも価値が理解されていること	
②地域の方々との交流促進が図られていること	2 件
・地元の人達と触れ合える機会があること	
・地元の方向けにもウォーキングイベントを実施し古道を知ってもらうこと	
③保全体制の財源確保が図られていること	1 件
・熊野古道の保全に関する財源を貯めるシステムの構築	
④誘客促進が図られていること	8 件
・歩きやすいコースが整備されていること	
・峠道とあわせて地域の観光スポットも周遊し地域の活性化につながっていること	
・伊勢路を通して歩くことができる受入体制があること	
・インバウンドに対応した受入体制があること	
・宿泊、食、体験メニューが充実していること	
・歩いて旅する文化の仕組みがあると良い（フットパス、ロングトレイルなどの事例）	
・大きなイベントだけでなく、小さな催しごとにも気軽に参加できること	
・高速道路との良好な共存関係があること	
⑤観光インフラが整備されていること	2 件
・伊勢路にバランスよく宿泊施設が配置されていること	
・都市部からの来訪者の方々にも快適に歩けるような環境づくり	
3 令和4年3月（「熊野古道アクションプログラム3追記編」策定）以降の社会情勢の変化を踏まえ、今後10年先までの熊野古道伊勢路のために必要なこと、強化すべきこと	
①本質的価値の啓発	2 件
・伊勢路の世界遺産について再認識する機会を設けてはどうか	
・世界遺産の景観保全の重要性を市民にも啓発すべき	
②持続可能な保全体制づくり	2 件
・保全活動の受入れの仕組みづくり。保全活動に自主的に取り組むことができる作業工程の明示など。	
・保全団体ごとに抱えている課題は異なるため、協働会議で対応を検討することが必要	
③誘客の促進（インバウンド含む）	23 件
・他の地域の状況にとらわれることなく、伊勢路らしさを踏まえて取り組むべき	
・インバウンド誘客は地域との交流や伊勢路の良さを理解できるように取り組むとよい。	
・関東、九州、北海道などの遠方向けのPRが必要	
・25周年、30周年に向けて具体的な方向性を示すことが必要	
・都市部からの1人旅のコースや、地元の人々との交流ができるようなモデルコースづくり	
・伊勢路を踏破できるしくみづくり	
・一人でも歩ける環境づくりを一層充実させていくこと	
・伊勢路の魅力を活用したインバウンド受入体制の充実	
・1人旅、2人旅の増加をふまた受け入れ体制づくり	
・アンバサダー（観光大使）のような存在が誘客促進には必要	
・欧米諸国だけでなくアジア圏からの誘客も重要	
・クルーズ船などの三重県への誘致	
・花の窟などの史跡の魅力を生かした誘客	
・宿泊施設の受入体制（多言語対応など）の整備	
・DXやAIを活用した情報発信、バーチャル熊野古道伊勢路の構築	
・「熊野古道観光大使」の認定。各地で講演などする時にこの名称を使う	
・主要な観光案内所での英語対応資料の充実	
・一貫したスタンプシステムの構築	
・インバウンド受入のための地元に詳しい英語対応スタッフの雇用、維持	
・宿泊施設、タクシー、荷物配達などのサービス促進、モデル旅程の作成サポート窓口の整備	
・地元の英語対応ガイドの育成	
・インバウンドゲストに焦点を当てたウェブサイトの構築	
・農林水産部などの各部との連携強化	

④観光インフラの整備	2 件
・ 峠の休憩場所を増やすこと	
・ インバウンドゲスト向けの統一された案内標識、充実した地図などの整備	
⑤バリアフリーの推進	1 件
・ バリアフリーの推進（七里御浜や、馬越峠（林道まで）など）	
⑥追加登録に向けた機運醸成	2 件
・ 追加登録に向けた地元関係者との連携強化	
・ 追加登録に向けた地元の機運醸成	
⑦三県との連携強化	3 件
・ 紀伊半島の県境を越えた連携が必要	
・ インバウンドが三重県に来てもらえるように三県の連携強化が必要	
・ 観光客が多い和歌山県と連携した取組が必要	
⑧クマ被害の防止	2 件
・ クマ被害防止対策	
・ クマ被害防止対策	
⑨子どもたちへの学習機会の提供	1 件
世界遺産でない市町を含めた子どもたちへの熊野古道の学習機会の提供	
4 新たに取り組みたいと考えていることや、成果をあげている事例（他地域を含めて）	
①保全活動を地元新聞やSNSでPRしている	3 件
・ 地元新聞に保存会の活動をPRし記事にもらっている	
・ SNSを活用した保存会の広報に関心がある	
・ SNS(インスタグラム)での保全活動の発信も行っている	
②インバウンド誘客（中辺路の成功事例）	2 件
・ 中辺路の共通巡礼手帳はインバウンドに人気がある	
・ インバウンド客への声掛けがつながりを生んでいる	
③体験コンテンツの充実に取り組みたい	1 件
・ 宿泊客向けの体験コンテンツを増やし、運営を外部委託するなど持続可能な形にしたい	
5 その他、行政や他の関係者・団体へのご提案や期待すること	
①課題にアプローチするための事業構築と予算の確保	1 件
・ 課題にアプローチできるための事業構築と予算確保を期待	
②拠点滞在型観光の推進	1 件
・ 拠点滞在型観光を進めること	
③三県との連携を深めていく	1 件
・ 三県との連携を深めていくこと	
④その他（助成金の情報提供）	1 件
・ 助成金の情報が得やすいようにしてほしい	

熊野古道來訪者調査
報告書

令和 7 年 3 月

一般社団法人東紀州地域振興公社

目次

1 調査概要.....	2
2 調査結果の概要.....	3
3 設問別調査結果.....	123

凡例

SA…Single Answer 単一回答

MA…Multiple Answer 複数回答

LA…Limited Answer 回答数の制限付き複数回答

1 調査概要

(1) 調査目的

熊野古道伊勢路への訪問者に対し、来訪者の属性や来訪時のニーズや満足度等を把握し、リピーター確保、サービス等の改善・向上等につなげる。

(2) 調査方法

熊野古道伊勢路を歩いた者を対象に、二次元コードを用いたWeb上での調査を実施。

(3) 調査期間

令和6年4月1日（月）から令和7年2月28日（金）まで

(4) 有効回収数

629件（令和5年度：873件）

(5) 調査項目

- 今回の訪問で歩いた熊野古道伊勢路の峠・ルート
- 熊野古道伊勢路への来訪回数
- 属性（住まい・性別・年齢・同行者）
- 語り部の依頼の有無
- 訪問のきっかけ
- 訪問の参考にした情報源
- 不満に感じたことや改善してほしいこと
- 今後歩きたい熊野古道伊勢路、伊勢路以外の峠・ルート
- 現在地前後の立寄り先
- 熊野古道伊勢路までの移動に使用した、主な交通手段
- 熊野古道の保全や語り部等の活動、古道に関わるイベントへの関心
- 熊野古道伊勢路を訪問した満足度、再来訪意向、紹介意向

(6) 分析の視点

分析にあたっては、経年比較、属性、今回の来訪で歩いた熊野古道伊勢路の峠別などでクロス集計を行うことで、熊野古道来訪の傾向を把握した。

(7) 調査結果の表示方法

- 比率は、原則として各設問のサンプル数に対する百分率を表示。
- 比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答の質問の比率は、回答数の合計をサンプル数で割った比率となっており、比率の合計は通常100%を超える。

(8) 調査主体

一般社団法人 東紀州地域振興公社

2 調査結果の概要

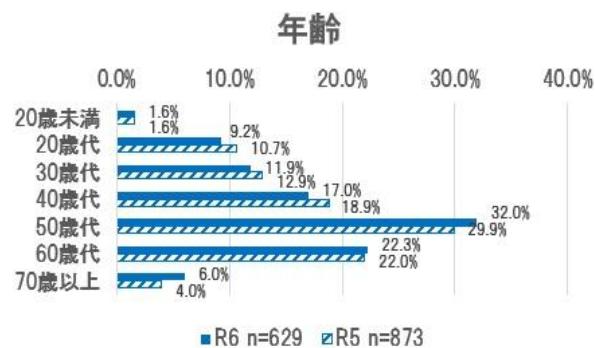
(1) 属性

- ・来訪者のうち、「三重県以外」に居住する割合は 69.0%で令和 5 年度と比べ 0.6 パーセント減少している。〈図表 1〉
- ・地方別の内訳は、「三重県以外」では「東海地方（三重県除く）」が 28.1%と最も高く、次いで「関東地方」が 16.4%、「関西地方」が 16.2%となっている。〈図表 2〉
- ・来訪者の年齢は、「50 歳代」が 2.1 パーセントの増加がみられたが、昨年度と同様に「40 歳代」から「60 歳代」の割合が高く、全体の約 7 割を占めている。〈図表 3〉
- ・同行者は、昨年度と比べて「夫婦・カップル」「家族（子ども連れ）」の割合が減少し、「同行者なし」が 5 パーセント以上増加した。〈図表 4〉
- ・熊野古道伊勢路への来訪回数は、「3 回目以上」が 10.4 パーセント増加した。〈図表 5〉

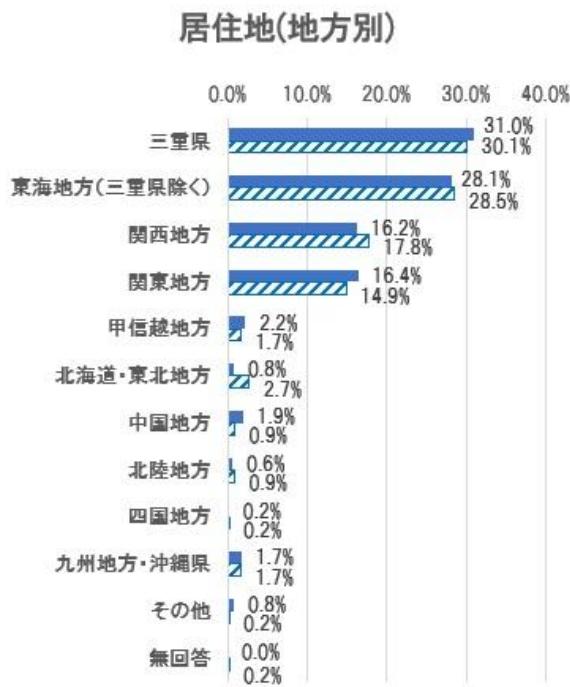
居住地（図表 1）【SA】



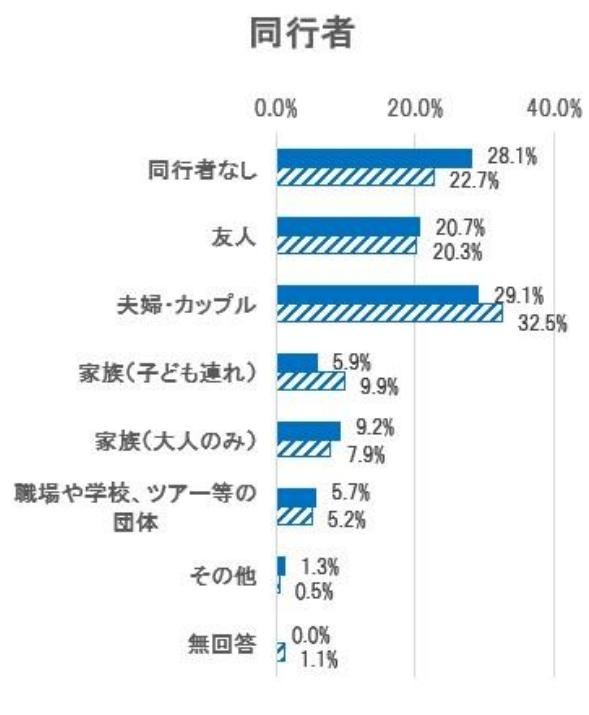
年齢（図表 3）【SA】



居住地（地方別）（図表 2）【SA】



同行者（図表 4）【SA】

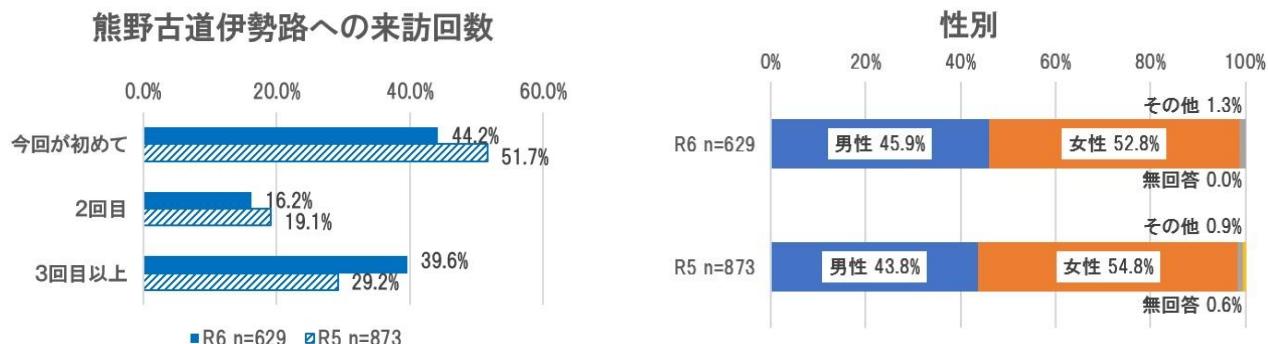


※地方区分の内訳

地方区分	都道府県名	都道府県数
北海道・東北地方	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	7
関東地方	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	7
甲信越地方	山梨県、長野県、新潟県	3
北陸地方	富山県、石川県、福井県	3
東海地方	静岡県、岐阜県、愛知県、三重県	4
関西地方	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	6
中国地方	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	5
四国地方	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	4
九州地方・沖縄県	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	8

熊野古道伊勢路への来訪回数〈図表5〉【SA】

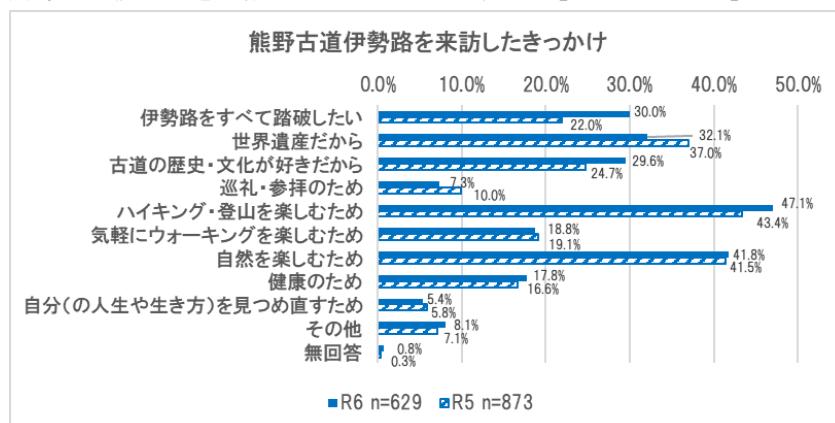
性別〈参考〉【SA】



(2) 訪問のきっかけ

- 訪問のきっかけは、全体では「ハイキング・登山を楽しむため」、「自然を楽しむため」が多い。〈図表6〉
- その他の回答では、三重県内の方は「伊勢路をすべて踏破したいから」、県外の方は「世界遺産だから」との回答が多い。また、東海地方（三重県除く）、関西地方、関東地方を比較すると、東海地方（三重県除く）は全般に平均的な傾向を示している。関西地方は「伊勢路をすべて踏破したいから」が多い一方で、「世界遺産だから」はそれほど多くない。関東地方は「古道の歴史・文化が好きだから」の回答が多い。〈図表7〉
- 訪問回数が初めての方は、「ハイキング・登山を楽しむため」「自然を楽しむため」「世界遺産だから」が多い。来訪回数を重ねると、「世界遺産だから」の回答割合が下がり、「伊勢路すべて踏破したいから」が増加していることから、複数の峠・ルートを歩きたいとの希望が高いことがうかがえる。〈図表8〉

熊野古道伊勢路を来訪したきっかけ〈図表6〉【LA：3つまで】



熊野古道伊勢路を訪問したきっかけ【LA：3つまで】×居住地【SA】〈図表7〉〈上段：件数／下段：構成比〉

		熊野古道伊勢路を来訪したきっかけ											
		全体	伊勢路をすべて踏破したい	世界遺産だから	古道の歴史・文化が好きだから	巡礼・参拝のため	ハイキング・登山を楽しむため	気軽にウォーキングを楽しむため	自然を楽しむため	健康のため	自分(の人生や生き方)を見つめ直すため	その他	無回答
居住地	全体	629	189	202	186	46	296	118	263	112	34	51	5
		100.0%	30.0%	32.1%	29.6%	7.3%	47.1%	18.8%	41.8%	17.8%	5.4%	8.1%	0.8%
	東紀州地域	36	5	6	3	1	16	17	19	15	5	4	-
		100.0%	13.9%	16.7%	8.3%	2.8%	44.4%	47.2%	52.8%	41.7%	13.9%	11.1%	-
	東紀州地域以外の三重県	159	70	50	38	9	87	33	64	38	4	12	1
		100.0%	44.0%	31.4%	23.9%	5.7%	54.7%	20.8%	40.3%	23.9%	2.5%	7.5%	0.6%
	三重県以外	434	113	145	143	36	190	68	177	59	25	34	4
		100.0%	26.0%	33.4%	32.9%	8.3%	43.8%	15.7%	40.8%	13.6%	5.8%	7.8%	0.9%
	東海地方	177	34	56	50	9	85	49	75	35	8	12	1
		100.0%	19.2%	31.6%	28.2%	5.1%	48.0%	27.7%	42.4%	19.8%	4.5%	6.8%	0.6%
	関西地方	102	42	36	31	9	37	7	44	12	7	6	1
		100.0%	41.2%	35.3%	30.4%	8.8%	36.3%	6.9%	43.1%	11.8%	6.9%	5.9%	1.0%
	関東地方	103	26	36	47	11	50	6	42	11	6	12	-
		100.0%	25.2%	35.0%	45.6%	10.7%	48.5%	5.8%	40.8%	10.7%	5.8%	11.7%	-
	甲信越地方	14	3	-	6	3	6	3	4	-	2	1	1
		100.0%	21.4%	-	42.9%	21.4%	42.9%	21.4%	28.6%	-	14.3%	7.1%	7.1%
	北海道・東海地方	5	1	3	1	1	2	1	2	-	-	-	-
		100.0%	20.0%	60.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	-	-	-	-
	中国地方	12	1	6	1	-	3	1	7	1	-	2	-
		100.0%	8.3%	50.0%	8.3%	-	25.0%	8.3%	58.3%	8.3%	-	16.7%	-
	北陸地方	4	1	1	4	-	2	1	1	-	-	-	-
		100.0%	25.0%	25.0%	100.0%	-	50.0%	25.0%	25.0%	-	-	-	-
	四国地方	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		100.0%	100.0%	100.0%	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-
	九州地方・沖縄県	11	4	6	3	3	4	-	2	-	2	1	1
		100.0%	36.4%	54.5%	27.3%	27.3%	36.4%	-	18.2%	-	18.2%	9.1%	9.1%
	その他	5	1	1	2	-	3	-	3	-	-	1	-
		100.0%	20.0%	20.0%	40.0%	-	60.0%	-	60.0%	-	-	20.0%	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

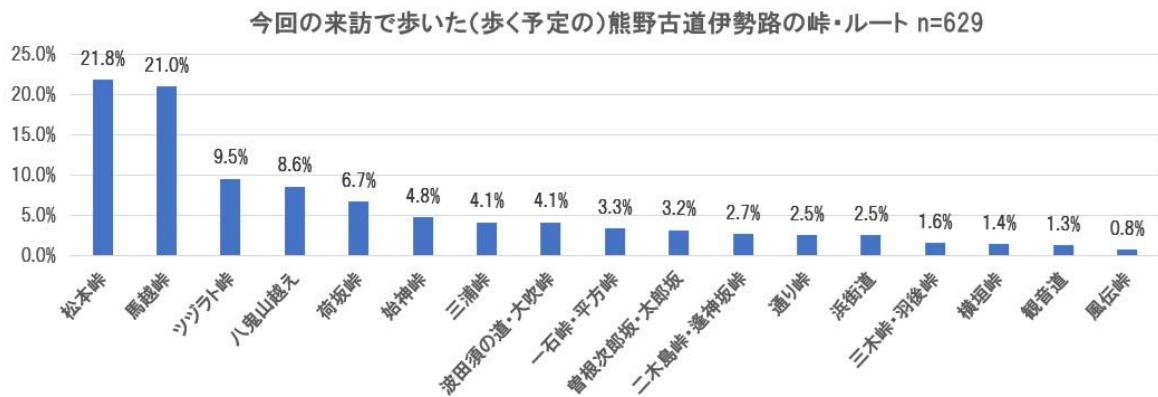
熊野古道伊勢路を訪問したきっかけ【LA：3つまで】×訪問回数【SA】〈図表8〉〈上段：件数／下段：構成比〉

		熊野古道伊勢路を来訪したきっかけ											
		全体	伊勢路をすべて踏破したい	世界遺産だから	古道の歴史・文化が好きだから	巡礼・参拝のため	ハイキング・登山を楽しむため	気軽にウォーキングを楽しむため	自然を楽しむため	健康のため	自分(の人生や生き方)を見つめ直すため	その他	無回答
来訪回数	全体	629	189	202	186	46	296	118	263	112	34	51	5
		100.0%	30.0%	32.1%	29.6%	7.3%	47.1%	18.8%	41.8%	17.8%	5.4%	8.1%	0.8%
	今回が初めて	278	42	114	71	19	116	47	116	36	16	31	4
		100.0%	15.1%	41.0%	25.5%	6.8%	41.7%	16.9%	41.7%	12.9%	5.8%	11.2%	1.4%
	2回目	102	32	39	35	10	46	21	46	23	5	7	-
		100.0%	31.4%	38.2%	34.3%	9.8%	45.1%	20.6%	45.1%	22.5%	4.9%	6.9%	-
	3回目以上	249	115	49	80	17	134	50	101	53	13	13	1
		100.0%	46.2%	19.7%	32.1%	6.8%	53.8%	20.1%	40.6%	21.3%	5.2%	5.2%	0.4%

(3) 伊勢路の峠・ルート

- 今回歩いた（歩く予定）峠・ルートは、「松本峠」「馬越峠」の順に多く、特に訪問回数が「今回初めて」の方は、この2峠で6割弱を占める。「3回以上」の方では、「馬越峠」「松本峠」「八鬼山越え」の順で多い。〈図表 10〉
- 今後歩きたい峠は、全体では「馬越峠」「八鬼山越え」「松本峠」の順に多い。「3回以上」の方では「風伝峠」が最も多くなるなど、様々な峠・ルートに関心があることがうかがえる。〈図表 11〉
- 伊勢路以外の峠・ルートでは「中辺路」が最も多く、特に、伊勢路への来訪回数が3回目以上の方の半数近い方が「歩いた、または今後歩きたい」と回答している。〈図表 12〉

今回の来訪で歩いた（歩く予定の）熊野古道伊勢路の峠・ルート〈図表 9〉【SA：主な峠・ルート1つ】



今回の来訪で歩いた（歩く予定の）熊野古道伊勢路の峠・ルート【SA】×訪問回数【SA】〈図表 10〉
〈上段：件数／下段：構成比〉

		今回の来訪で歩いた(歩く予定の)熊野古道伊勢路の峠・ルート																	
		全体	ツヅラト峠	荷坂峠	一石峠・平方峠	三浦峠	始神峠	馬越峠	八鬼山越え	三木峠・羽後峠	曾根次郎坂・太郎坂	二木島峠・逢神坂峠	波田須の道・大吹峠	観音道	松本峠	横垣峠	風伝峠	通り峠	浜街道
来訪回数	全体	629	60	42	21	26	30	132	54	10	20	17	26	8	137	9	5	16	16
	今回が初めて	278	23	19	3	6	8	70	17	1	2	3	10	3	89	3	2	9	10
	2回目	102	12	6	5	8	4	25	11	2	1	-	4	-	17	-	1	4	2
	3回目以上	249	25	17	13	12	18	37	26	7	17	14	12	5	31	6	2	3	4

今後歩きたい熊野古道伊勢路の峠・ルート【MA】×訪問回数別【SA】〈図表 11〉〈上段：件数／下段：構成比〉

		今後歩きたい熊野古道伊勢路の峠・ルート																	
		全体	ツヅラト峠	荷坂峠	一石峠・平方峠	三浦峠	始神峠	馬越峠	八鬼山越え	三木峠・羽後峠	曾根次郎坂・太郎坂	二木島峠・逢神坂峠	波田須の道・大吹峠	観音道	松本峠	横垣峠	風伝峠	通り峠	浜街道
来訪回数	全体	629	139	81	68	66	90	169	168	79	89	89	91	90	143	90	132	97	125
	今回が初めて	278	71	29	17	16	29	69	52	17	21	23	21	24	50	13	26	21	32
	2回目	102	19	17	14	9	14	37	39	15	16	14	17	17	26	13	20	13	18
	3回目以上	249	49	35	37	41	47	63	77	47	52	52	53	49	67	64	86	63	75

熊野古道伊勢路以外で今までに歩いた、または今後歩きたい熊野古道の峠・ルート【MA】×訪問回数【SA】
 〈図表 12〉

		熊野古道伊勢路以外で今までに歩いた、または今後歩きたい熊野古道									
		全体	東紀州エリア外の伊勢路	中辺路	大辺路	小辺路	紀伊路	高野参詣道	大峰奥駿道	特にない	無回答
来訪回数	全体	629	147	250	129	147	124	197	133	121	3
	100.0%	23.4%	39.7%	20.5%	23.4%	19.7%	31.3%	21.1%	19.2%	0.5%	
	今回が初めて	278	44	83	38	42	48	61	34	80	2
	100.0%	15.8%	29.9%	13.7%	15.1%	17.3%	21.9%	12.2%	28.8%	0.7%	
2回目	102	32	47	30	32	29	45	26	20	-	-
	100.0%	31.4%	46.1%	29.4%	31.4%	28.4%	44.1%	25.5%	19.6%	-	-
3回目以上	249	71	120	61	73	47	91	73	21	1	
	100.0%	28.5%	48.2%	24.5%	29.3%	18.9%	36.5%	29.3%	8.4%	0.4%	

(4) 情報源

- 訪問の参考にした主な情報源は「ホームページやウェブサイト」「観光パンフレット・マップ」の割合が高い。幅広い年齢層の情報源となっていることから、情報の充実・整理が必要である。
- 20歳代では「友人・知人からの口コミ」の割合が高いことから、口コミとの相性が良い「SNS」を活用した若い世代へのプロモーションが重要と考えられる。〈図表 13〉

主な情報源【LA: 3つまで】×年齢【SA】〈図表 13〉

〈上段：件数／下段：構成比〉

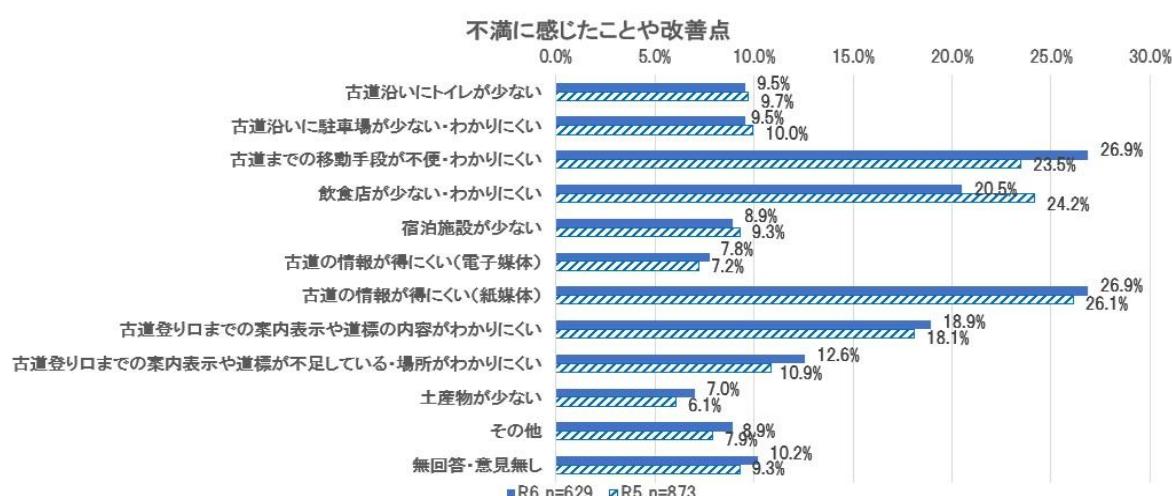
		情報源									
		全体	ホームページやウェブサイト	SNS	テレビ・映画	雑誌・新聞	観光パンフレット・マップ	観光案内所・道の駅	旅行社を通じて	友人・知人からの口コミ	その他
令和6年度	全体	629	398	141	23	49	275	107	21	98	47
	100.0%	63.3%	22.4%	3.7%	7.8%	43.7%	17.0%	3.3%	15.6%	7.5%	1.3%
	20歳未満	10	4	2	-	1	3	-	1	4	1
	100.0%	40.0%	20.0%	-	10.0%	30.0%	-	10.0%	40.0%	10.0%	-
年齢	20歳代	58	30	12	-	2	19	9	2	17	5
	100.0%	51.7%	20.7%	-	3.4%	32.8%	15.5%	3.4%	29.3%	8.6%	-
	30歳代	75	47	29	2	2	28	12	-	9	8
	100.0%	62.7%	38.7%	2.7%	2.7%	37.3%	16.0%	-	12.0%	10.7%	-
令和5年度	40歳代	107	69	27	4	7	42	18	2	13	10
	100.0%	64.5%	25.2%	3.7%	6.5%	39.3%	16.8%	1.9%	12.1%	9.3%	1.9%
	50歳代	201	139	46	8	19	88	35	4	33	10
	100.0%	69.2%	22.9%	4.0%	9.5%	43.8%	17.4%	2.0%	16.4%	5.0%	1.0%
	60歳代	140	87	22	8	16	74	22	6	18	7
	100.0%	62.1%	15.7%	5.7%	11.4%	52.9%	15.7%	4.3%	12.9%	5.0%	2.9%
	70歳以上	38	22	3	1	2	21	11	6	4	6
	100.0%	57.9%	7.9%	2.6%	5.3%	55.3%	28.9%	15.8%	10.5%	15.8%	-
	全体	873	538	204	33	64	320	162	25	156	43
	100.0%	61.6%	23.4%	3.8%	7.3%	36.7%	18.6%	2.9%	17.9%	4.9%	0.8%
	20歳未満	14	7	5	1	-	3	3	-	2	-
	100.0%	50.0%	35.7%	7.1%	-	21.4%	21.4%	-	14.3%	-	-
	20歳代	93	56	30	4	3	31	17	3	15	4
	100.0%	60.2%	32.3%	4.3%	3.2%	33.3%	18.3%	3.2%	16.1%	4.3%	1.1%
	30歳代	113	61	32	2	7	22	17	-	28	7
	100.0%	54.0%	28.3%	1.8%	6.2%	19.5%	15.0%	-	24.8%	6.2%	0.9%
	40歳代	165	114	47	6	2	53	29	2	30	14
	100.0%	69.1%	28.5%	3.6%	1.2%	32.1%	17.6%	1.2%	18.2%	8.5%	-
	50歳代	261	163	64	11	24	110	47	8	43	8
	100.0%	62.5%	24.5%	4.2%	9.2%	42.1%	18.0%	3.1%	16.5%	3.1%	1.5%
	60歳代	192	109	23	6	24	89	40	10	33	10
	100.0%	56.8%	12.0%	3.1%	12.5%	46.4%	20.8%	5.2%	17.2%	5.2%	0.5%
	70歳以上	35	28	3	3	4	12	9	2	5	-
	100.0%	80.0%	8.6%	8.6%	11.4%	34.3%	25.7%	5.7%	14.3%	-	-

(5) 不満に感じたことや改善してほしいこと

- ・「古道までの移動手段が不便・わかりにくい」「古道の情報が得にくい（紙媒体）」「飲食店が少ない・わかりにくい」の回答が多い。
- ・令和5年度と比較すると「古道までの移動手段が不便・わかりにくい」「古道登り口までの案内表示や道標が不足している・場所がわかりにくい」「古道登り口までの案内表示や道標の内容がわかりにくい」などの回答が増えている。これらのことから、古道の情報や登り口の案内を充実させ、積極的に発信する必要がある。

〈図表 14〉

不満に感じたことや改善してほしいこと〈図表 14〉【MA】



(6) 古道に関わるイベント等への関心

- ・「関心がある」と回答した方は、8割を超えており、「関心があり、参加してみたい」「関心があり、内容を詳しく知りたい」との回答が5割を超えている。
- ・「関心があり、参加してみたい」と回答した方の割合は、語り部を依頼していない方よりも、依頼をした方が高くなっている。このため、語り部を活用することが古道の保全活動やイベント等の参加を促すうえで効果的であると考えられる。

〈図表 15〉

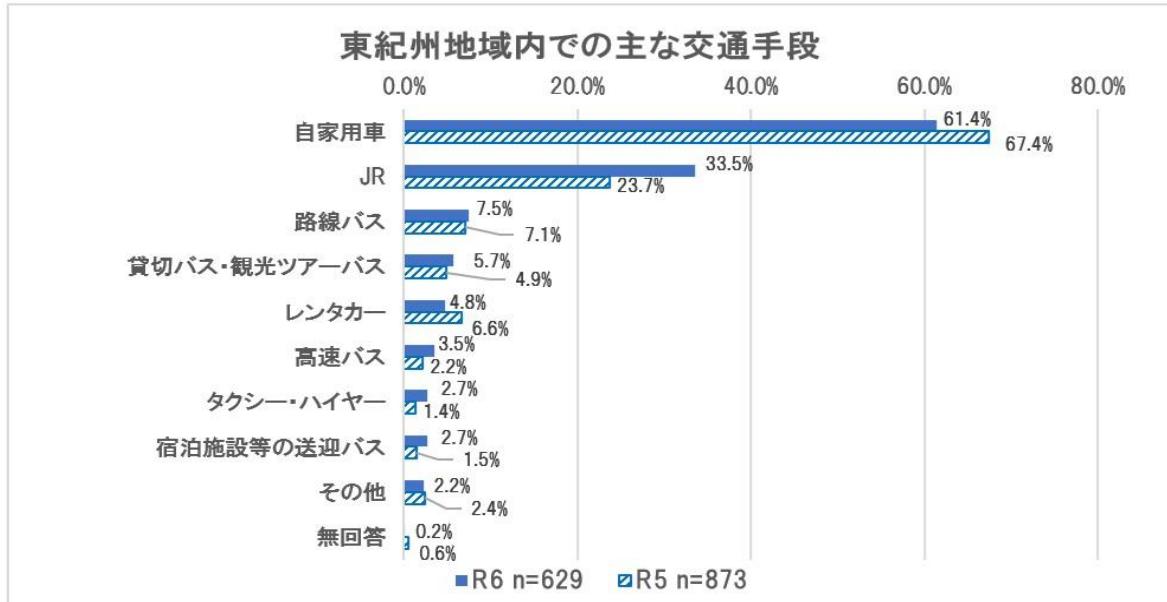
古道に関わるイベント等への関心【SA】×語り部依頼【SA】、訪問回数【SA】〈図表 15〉
〈上段：件数／下段：構成比〉

		熊野古道の保全活動や語り部などの熊野古道を守り伝える活動やイベントに関心があるか					
		全体	関心があり、参加してみたい	関心はあり、内容を詳しく知りたい	関心はあるが、参加したくない	関心がない	無回答
語り部の依頼	依頼した	629	149	180	199	94	7
	依頼していない	100.0%	23.7%	28.6%	31.6%	14.9%	1.1%
来訪回数	依頼した	86	30	17	26	11	2
	依頼していない	100.0%	34.9%	19.8%	30.2%	12.8%	2.3%
今回が初めて	依頼した	543	119	163	173	83	5
	依頼していない	100.0%	21.9%	30.0%	31.9%	15.3%	0.9%
2回目	依頼した	278	51	76	99	51	1
	依頼していない	100.0%	18.3%	27.3%	35.6%	18.3%	0.4%
3回目以上	依頼した	102	27	27	27	18	3
	依頼していない	100.0%	26.5%	26.5%	26.5%	17.6%	2.9%

(7) 地域内での交通手段

- 「自家用車」が最も多く 61.4% となっている。次いで「JR」が 33.5% と多く、「八鬼山越え」では 6 割強の方が「JR」を利用している。〈図表 16、17〉

東紀州地域内での主な交通手段【MA】〈図表 16〉



地域内での交通手段【MA】×今回の来訪で歩いた熊野古道伊勢路峠・ルート【SA】〈図表 17〉

〈上段：件数／下段：構成比〉

		地域内での交通手段										
		全体	自家用車	レンタカー	JR	貸切バス・観光ツアーバス	高速バス	路線バス	タクシー・ハイヤー	宿泊施設等の送迎バス	その他	
今 回 の 来 訪 で 歩 い た （ 予 定 の ） 熊 野 古 道 伊 勢 路 の 峠 ・ ル ト	全体	629	386	30	211	36	22	47	17	17	14	1
	100.0%	61.4%	61.4%	4.8%	33.5%	5.7%	3.5%	7.5%	2.7%	2.7%	2.2%	0.2%
	ツヅラト峠	60	38	3	25	2	-	5	-	1	4	-
	100.0%	63.3%	63.3%	5.0%	41.7%	3.3%	-	8.3%	-	1.7%	6.7%	-
	荷坂峠	42	26	3	17	2	1	1	-	-	-	1
	100.0%	61.9%	61.9%	7.1%	40.5%	4.8%	2.4%	2.4%	-	-	-	2.4%
	一石峠・平方峠	21	9	2	10	-	1	-	-	-	-	-
	100.0%	42.9%	42.9%	9.5%	47.6%	-	4.8%	-	-	-	-	-
	三浦峠	26	11	1	10	7	1	3	-	-	-	-
	100.0%	42.3%	42.3%	3.8%	38.5%	26.9%	3.8%	11.5%	-	-	-	-
	始神峠	30	24	1	5	-	-	3	1	-	1	-
	100.0%	80.0%	80.0%	3.3%	16.7%	-	-	10.0%	3.3%	-	3.3%	-
	馬越峠	132	92	3	27	9	6	7	3	-	3	-
	100.0%	69.7%	69.7%	2.3%	20.5%	6.8%	4.5%	5.3%	2.3%	-	2.3%	-
	八鬼山越え	54	24	2	34	1	4	8	2	1	1	-
	100.0%	44.4%	44.4%	3.7%	63.0%	1.9%	7.4%	14.8%	3.7%	1.9%	1.9%	-
	三木峠・羽後峠	10	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	100.0%	90.0%	90.0%	-	30.0%	-	-	-	-	-	-	-
	曾根次郎坂・太郎坂	20	12	2	10	2	-	1	2	2	-	-
	100.0%	60.0%	60.0%	10.0%	50.0%	10.0%	-	5.0%	10.0%	10.0%	-	-
	二木島峠・逢神坂峠	17	13	-	5	-	1	1	2	2	1	-
	100.0%	76.5%	-	-	29.4%	-	5.9%	5.9%	11.8%	11.8%	5.9%	-
	波田須の道・大吹峠	26	16	1	11	3	-	3	-	-	-	-
	100.0%	61.5%	61.5%	3.8%	42.3%	11.5%	-	11.5%	-	-	-	-
	観音道	8	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	100.0%	75.0%	75.0%	12.5%	12.5%	12.5%	-	-	-	-	-	-
	松本峠	137	85	9	36	3	6	5	6	10	3	-
	100.0%	62.0%	62.0%	6.6%	26.3%	2.2%	4.4%	3.6%	4.4%	7.3%	2.2%	-
	横垣峠	9	5	-	1	2	1	2	-	-	-	-
	100.0%	55.6%	-	-	11.1%	22.2%	11.1%	22.2%	-	-	-	-
	風伝峠	5	3	2	1	-	-	1	-	-	-	-
	100.0%	60.0%	60.0%	40.0%	20.0%	-	-	20.0%	-	-	-	-
	通り峠	16	5	-	6	4	-	5	-	1	1	-
	100.0%	31.3%	-	-	37.5%	25.0%	-	31.3%	-	6.3%	6.3%	-
	浜街道	16	8	-	9	-	1	2	1	-	-	-
	100.0%	50.0%	-	-	56.3%	-	6.3%	12.5%	6.3%	-	-	-

(8) 立寄り先

- ・来訪が多い3峰（馬越峠、松本峠、ツヅラト峠）に近い、「道の駅 海山」「鬼ヶ城、鬼ヶ城センター」「道の駅 紀伊長島マンボウ」への立寄りが多い。
- ・「関東地方」の方は「伊勢神宮」「熊野那智大社(那智の滝)」「熊野速玉大社」「熊野本宮大社」への立寄りが多く、広く周遊していることがうかがえる。
- ・「東紀州地域以外の三重県」では、東紀州地域内の立寄りが多く、和歌山県への立寄りが少ないとから、東紀州地域を主な目的地として来訪していると考えられる。

〈図表 18〉

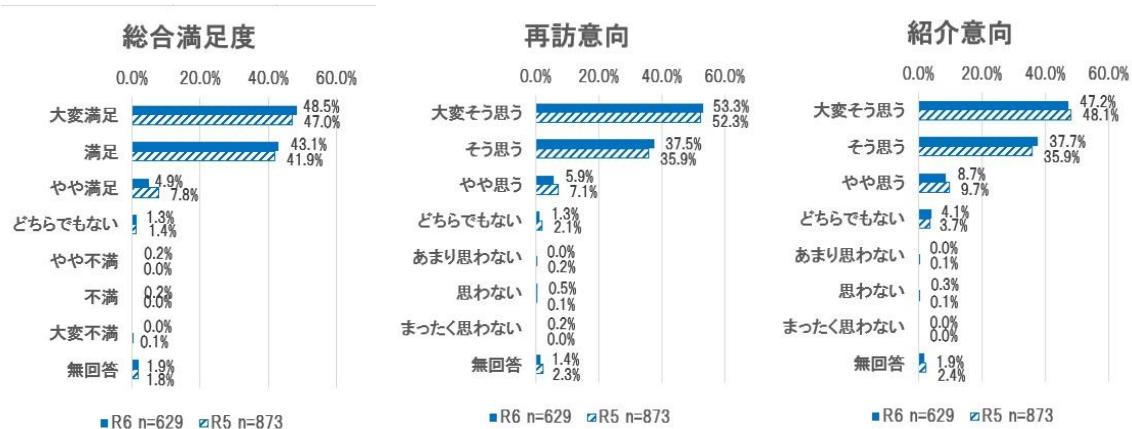
居住地【SA】×立寄り先【MA】〈図表 18〉

		居住地													
		全体		東紀州地域		東紀州地域以外 の三重県		東海地方 (三重県除く)		関西地方		関東地方		その他の地方	
		合計	比率	合計	比率	合計	比率	合計	比率	合計	比率	合計	比率	合計	比率
全体		629	100.0%	36	100.0%	159	100.0%	177	100.0%	102	100.0%	103	100.0%	52	100.0%
東 紀 州 地 域 内	道の駅 紀伊長島マンボウ	248	39.4%	9	25.0%	89	56.0%	77	43.5%	31	30.4%	27	26.2%	15	28.8%
	始神テラス	112	17.8%	4	11.1%	50	31.4%	37	20.9%	14	13.7%	3	2.9%	4	7.7%
	道の駅 海山	180	28.6%	13	36.1%	31	19.5%	61	34.5%	24	23.5%	32	31.1%	19	36.5%
	三重県立熊野古道センター	112	17.8%	5	13.9%	34	21.4%	25	14.1%	18	17.6%	22	21.4%	8	15.4%
	夢古道おわせ	64	10.2%	3	8.3%	14	8.8%	19	10.7%	12	11.8%	13	12.6%	3	5.8%
	おわせお魚いちば おとと	88	14.0%	7	19.4%	31	19.5%	20	11.3%	11	10.8%	12	11.7%	7	13.5%
	鬼ヶ城、鬼ヶ城センター	194	30.8%	8	22.2%	41	25.8%	47	26.6%	39	38.2%	41	39.8%	18	34.6%
	獅子岩	133	21.1%	3	8.3%	23	14.5%	33	18.6%	28	27.5%	34	33.0%	12	23.1%
	花の窟神社、道の駅 熊野・花の窟	183	29.1%	4	11.1%	34	21.4%	48	27.1%	38	37.3%	44	42.7%	15	28.8%
	入鹿温泉、湯ノ口温泉	32	5.1%	2	5.6%	6	3.8%	5	2.8%	7	6.9%	6	5.8%	6	11.5%
立 寄 り 先	丸山千枚田	59	9.4%	3	8.3%	10	6.3%	17	9.6%	10	9.8%	13	12.6%	6	11.5%
	道の駅 パーク七里御浜	71	11.3%	3	8.3%	12	7.5%	17	9.6%	13	12.7%	17	16.5%	9	17.3%
	道の駅 紀宝町ウミガメ公園	79	12.6%	3	8.3%	20	12.6%	17	9.6%	16	15.7%	15	14.6%	8	15.4%
	伊勢神宮(外宮、内宮、おかげ横丁)	92	14.6%	2	5.6%	14	8.8%	20	11.3%	15	14.7%	26	25.2%	15	28.8%
	VISON	34	5.4%	1	2.8%	11	6.9%	13	7.3%	6	5.9%	2	1.9%	1	1.9%
三 重 県	道の駅 奥伊勢おおだい	69	11.0%	1	2.8%	29	18.2%	11	6.2%	12	11.8%	9	8.7%	7	13.5%
	瀧原宮	33	5.2%	1	2.8%	12	7.5%	2	1.1%	7	6.9%	7	6.8%	4	7.7%
和 歌 山 県	熊野速玉大社	119	18.9%	2	5.6%	12	7.5%	24	13.6%	21	20.6%	43	41.7%	17	32.7%
	熊野本宮大社	112	17.8%	2	5.6%	13	8.2%	29	16.4%	19	18.6%	28	27.2%	21	40.4%
	熊野那智大社(那智の滝)	107	17.0%	3	8.3%	13	8.2%	26	14.7%	14	13.7%	35	34.0%	16	30.8%
	高野山(總本山金剛峯寺)	19	3.0%	1	2.8%	3	1.9%	3	1.7%	6	5.9%	2	1.9%	4	7.7%
その他		104	16.5%	1	2.8%	23	14.5%	26	14.7%	19	18.6%	22	21.4%	13	25.0%

(9) 総合満足度・再来訪意向・紹介意向

- ・総合満足度・再来訪意向ともに「大変満足・大変そう思う」「満足・そう思う」の合計が9割を超えており、「大変満足」の回答が10件以上ある峠・ルートでは、「松本峠」「曾根次郎坂・太郎坂」「八鬼山越え」の順に高く、「始神峠」「三浦峠」「荷坂峠」の順に低い。
 - ・「大変満足」の回答が10件以上ある峠・ルートでは、「松本峠」「曾根次郎坂・太郎坂」「八鬼山越え」の順に高く、「始神峠」「三浦峠」「荷坂峠」の順に低い。
- 〈図表 20〉

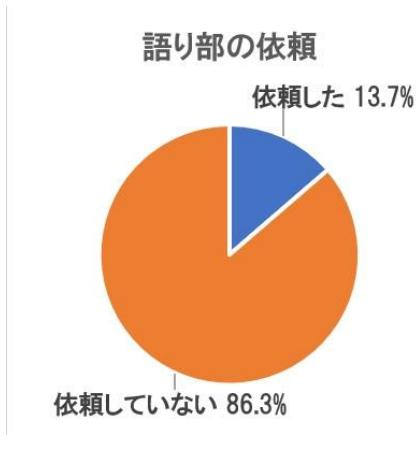
満足度（今回の来訪で歩いた（歩く予定の）峠別）〈図表 19〉



(10) 語り部の依頼

- 熊野古道伊勢路を歩く際に語り部を依頼した割合は 13.7%で、令和 5 年度と比べて 3.2 ポイント増えている。〈図表 21〉
- 依頼した方の 5 割強が「今回が初めて」の来訪で、性別では女性の割合が 7 割を超えていている。また、峠・ルートでは、「松本峠」が 36.0% と高い。〈図表 22、23、24〉
- 総合満足度・再来訪意向・紹介意向では、語り部を依頼した方は、「大変満足・大変そう思う」と回答した割合が高い。〈図表 25〉

語り部の依頼（図表 21）【SA】



語り部の依頼【SA】×熊野古道伊勢路への来訪回数【SA】（図表 22）

（上段：件数／下段：構成比）

		熊野古道伊勢路への来訪回数			
		全体	今回が初めて	2回目	3回目以上
語り部 依頼	全体	629	278	102	249
	依頼	86	47	10	29
	依頼していない	543	231	92	220
	依頼していない	100.0%	42.5%	16.9%	40.5%

		語り部依頼【SA】×性別【SA】（図表 23）（上段：件数／下段：構成比）			
		性別	男性	女性	その他
語り部 依頼	全体	629	289	332	8
	依頼	86	18	67	1
	依頼していない	543	271	265	7
	依頼していない	100.0%	49.9%	48.8%	1.3%

今回の来訪で歩いた（歩く予定の）熊野古道伊勢路の峠・ルート【SA】×語り部の依頼【SA】（図表 24）

（上段：件数／下段：構成比）

		今回の来訪で歩いた（歩く予定の）熊野古道伊勢路の峠・ルート																	
		全体	ツヅラト峠	荷坂峠	一石峠・平方峠	三浦峠	始神峠	馬越峠	八鬼山越え	三木峠・羽後峠	曾根次郎坂・太郎坂	二木島峠・逢神坂峠	波田須の道・大吹峠	観音道	松本峠	横垣峠	風伝峠	通り峠	浜街道
語り部 の 依頼	全体	629	60	42	21	26	30	132	54	10	20	17	26	8	137	9	5	16	16
	依頼	86	7	3	2	6	3	11	5	-	3	5	3	1	31	3	-	3	-
	依頼していない	543	53	39	19	20	27	121	49	10	17	12	23	7	106	6	5	13	16

語り部依頼【SA】×総合満足度・再来訪意向・紹介意向【SA】（図表 25）

		総合満足度									再訪意向								
		全体	大変満足	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	大変不満	無回答	全体	大変そう思う	そう思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	まったく思わない	無回答
語り部 の 依頼	全体	629	305	271	31	8	1	1	0	12	629	335	236	37	8	0	3	1	9
	依頼	86	51	33	1	0	0	0	0	0	86	50	29	5	0	0	0	0	2
	依頼していない	543	254	238	30	8	1	1	0	11	543	285	207	32	8	0	3	1	7

		紹介意向								
		全体	大変そう思う	そう思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	まったく思わない	無回答
語り部 の 依頼	全体	629	297	237	55	26	0	2	0	12
	依頼	86	49	27	5	3	0	0	0	2
	依頼していない	543	248	210	50	23	0	2	0	10

語り部を依頼した方の特徴（参考）

今回歩いた伊勢路の峠・ルート	来訪回数	居住地	性別	年齢	同行者	きっかけ	今後歩きたい熊野古道伊勢路の峠・ルート	東紀州地域内での、熊野古道伊勢路までの移動に使用した、主な交通手段
松本峠	今回が初めて	静岡県	女性	50歳代	夫婦・カップル	世界遺産だから	風伝峠	路線バス
馬越峠	今回が初めて	兵庫県	女性	40歳代	友人	世界遺産だから	ツヅラト峠	自家用車

3 設問別調査結果

1) 今回の来訪で歩いた（歩く予定の）熊野古道伊勢路の峠・ルートを教えてください。

【SA：複数あてはまる場合は、主なもの1つだけマークしてください。】

	R6	割合
全体	629	100.0%
ツヅラト峠	60	9.5%
荷坂峠	42	6.7%
一石峠・平方峠	21	3.3%
三浦峠	26	4.1%
始神峠	30	4.8%
馬越峠	132	21.0%
八鬼山越え	54	8.6%
三木峠・羽後峠	10	1.6%
曾根次郎坂・太郎坂	20	3.2%
二木島峠・逢神坂峠	17	2.7%
波田須の道・大吹峠	26	4.1%
観音道	8	1.3%
松本峠	137	21.8%
横垣峠	9	1.4%
風伝峠	5	0.8%
通り峠	16	2.5%
浜街道	16	2.5%

2) これまで熊野古道伊勢路を歩いたことがありますか。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
今回が初めて	278	44.2%	451	51.7%	-7.5
2回目	102	16.2%	167	19.1%	-2.9
3回目以上	249	39.6%	255	29.2%	10.4

3) お住まいを教えてください。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
東紀州地域	36	5.7%	44	5.0%	0.7
東紀州地域以外の三重県	159	25.3%	219	25.1%	0.2
岐阜県	15	2.4%	33	3.8%	-1.4
静岡県	38	6.0%	31	3.6%	2.5
愛知県	124	19.7%	185	21.2%	-1.5
滋賀県	15	2.4%	23	2.6%	-0.2
京都府	12	1.9%	14	1.6%	0.3
大阪府	37	5.9%	51	5.8%	0.0
兵庫県	18	2.9%	25	2.9%	0.0
奈良県	5	0.8%	17	1.9%	-1.2
和歌山県	15	2.4%	25	2.9%	-0.5
北海道・東北地方	5	0.8%	24	2.7%	-2.0
関東地方	103	16.4%	130	14.9%	1.5
甲信越地方	14	2.2%	15	1.7%	0.5
北陸地方	4	0.6%	8	0.9%	-0.3
中国地方	12	1.9%	8	0.9%	1.0
四国地方	1	0.2%	2	0.2%	-0.1
九州地方・沖縄県	11	1.7%	15	1.7%	0.0
その他	5	0.8%	2	0.2%	0.6
回答無	0	0.0%	2	0.2%	-0.2

4) 性別を教えてください。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
男性	289	45.9%	382	43.8%	2.2
女性	332	52.8%	478	54.8%	-2.0
その他	8	1.3%	8	0.9%	0.4
無回答	0	0.0%	5	0.6%	-0.6

5) 年齢を教えてください。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
20歳未満	10	1.6%	14	1.6%	0.0
20歳代	58	9.2%	93	10.7%	-1.4
30歳代	75	11.9%	113	12.9%	-1.0
40歳代	107	17.0%	165	18.9%	-1.9
50歳代	201	32.0%	261	29.9%	2.1
60歳代	140	22.3%	192	22.0%	0.3
70歳以上	38	6.0%	35	4.0%	2.0

6) 今回の来訪の同行者について教えてください。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
同行者なし	177	28.1%	198	22.7%	5.5
友人	130	20.7%	177	20.3%	0.4
夫婦・カップル	183	29.1%	284	32.5%	-3.4
家族(子ども連れ)	37	5.9%	86	9.9%	-4.0
家族(大人のみ)	58	9.2%	69	7.9%	1.3
職場や学校、ツアー等の団体	36	5.7%	45	5.2%	0.6
その他	8	1.3%	4	0.5%	0.8
無回答	0	0.0%	10	1.1%	-1.1

7) 今回、熊野古道の歴史や史跡などをご説明しながらご案内する『語り部』を依頼されましたか。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
依頼した	86	13.7%	92	10.5%	3.1
依頼していない	543	86.3%	781	89.5%	-3.1

8) 今回、熊野古道伊勢路を来訪したきっかけについて教えてください。【LA：3つまで】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
伊勢路をすべて踏破したい	189	30.0%	192	22.0%	8.1
世界遺産だから	202	32.1%	323	37.0%	-4.9
古道の歴史・文化が好きだから	186	29.6%	216	24.7%	4.8
巡礼・参拝のため	46	7.3%	87	10.0%	-2.7
ハイキング・登山を楽しむため	296	47.1%	379	43.4%	3.6
気軽にウォーキングを楽しむため	118	18.8%	167	19.1%	-0.4
自然を楽しむため	263	41.8%	362	41.5%	0.3
健康のため	112	17.8%	145	16.6%	1.2
自分(の人生や生き方)を見つめ直すため	34	5.4%	51	5.8%	-0.4
その他	51	8.1%	62	7.1%	1.0
無回答	5	0.8%	3	0.3%	0.5

9) 熊野古道伊勢路への来訪にあたり、参考にした主な情報源について教えてください。

【LA：3つまで】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
ホームページやウェブサイト	398	63.3%	538	61.6%	1.6
SNS	141	22.4%	204	23.4%	-1.0
テレビ・映画	23	3.7%	33	3.8%	-0.1
雑誌・新聞	49	7.8%	64	7.3%	0.5
観光パンフレット・マップ	275	43.7%	320	36.7%	7.1
観光案内所・道の駅	107	17.0%	162	18.6%	-1.5
旅行会社を通じて	21	3.3%	25	2.9%	0.5
友人・知人からの口コミ	98	15.6%	156	17.9%	-2.3
その他	47	7.5%	42	4.8%	2.7
無回答	8	1.3%	8	0.9%	0.4

10) 熊野古道伊勢路を訪れて、不満に感じたことや改善してほしいことを教えてください。【MA】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
古道の情報が得にくい(紙媒体)	60	9.5%	85	9.7%	-0.2
古道の情報が得にくい(電子媒体)	60	9.5%	87	10.0%	-0.4
古道までの移動手段が不便・わかりにくい	169	26.9%	205	23.5%	3.4
古道沿いに駐車場が少ない・わかりにくい	129	20.5%	211	24.2%	-3.7
古道登り口までの案内表示や道標の内容がわかりにくい	56	8.9%	81	9.3%	-0.4
古道登り口までの案内表示や道標が不足している・場所がわかりにくい	49	7.8%	63	7.2%	0.6
古道沿いにトイレが少ない	169	26.9%	228	26.1%	0.8
飲食店が少ない・わかりにくい	119	18.9%	158	18.1%	0.8
宿泊施設が少ない	79	12.6%	95	10.9%	1.7
土産物が少ない	44	7.0%	53	6.1%	0.9
その他	56	8.9%	69	7.9%	1.0
無回答	64	10.2%	81	9.3%	0.9

【その他の意見】※抜粋

	路面の案内道標がその場に行かない気付けないので、少し離れた場所からでもわかるもの方がいいなと思いました。 場所によって登山口までの道路や登山道が荒れてる。
整備	荷物を預けられる場所が無い。 スタンプ設置場所が分かりにくい。登山者向けのは理解するが、他の方にも気軽に参加して頂くにはかなり分かりにくいし、行きづらい。
	事前にインターネットで地図入手していたのですが、林道への入り口や車道から遊歩道へ入る箇所など、分かれ道での案内が分かりにくいと感じました。
	実際に歩いていた中で外国の方に道を尋ねられたのですが、遊歩道への入り口を見逃して林道を歩いてしまったようで、英語での案内も詳細なものがあると良いのではないかと思いました。
トイレ	洋式の便座に変えてほしい。
交通	電車の本数がもう少しあると便利。 公共交通を使ったが大変すぎる。
	日帰り温泉が少ない。
その他	熊を警戒しないといけない。 地図のスケール感がわかりにくい。 伊勢路の全国版のツアーが少ない。中辺路は沢山のツアーがたくさんある。

11) 今後歩きたい熊野古道伊勢路の峠・ルートを教えてください。【MA】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
ツヅラト峠	139	22.1%	234	26.8%	-4.7
荷坂峠	81	12.9%	113	12.9%	-0.1
一石峠・平方峠	68	10.8%	77	8.8%	2.0
三浦峠	66	10.5%	69	7.9%	2.6
始神峠	90	14.3%	123	14.1%	0.2
馬越峠	169	26.9%	194	22.2%	4.6
八鬼山越え	168	26.7%	217	24.9%	1.9
三木峠・羽後峠	79	12.6%	82	9.4%	3.2
曾根次郎坂・太郎坂	89	14.1%	87	10.0%	4.2
二木島峠・逢神坂峠	89	14.1%	89	10.2%	4.0
波田須の道・大吹峠	91	14.5%	84	9.6%	4.8
観音道	90	14.3%	89	10.2%	4.1
松本峠	143	22.7%	132	15.1%	7.6
横垣峠	90	14.3%	72	8.2%	6.1
風伝峠	132	21.0%	117	13.4%	7.6
通り峠	97	15.4%	81	9.3%	6.1
浜街道	125	19.9%	113	12.9%	6.9
特にない	51	8.1%	93	10.7%	-2.5
無回答	2	0.3%	1	0.1%	0.2

12) 熊野古道伊勢路以外で今までに歩いた、または今後歩きたい熊野古道を教えてください。【MA】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
東紀州エリア外の伊勢路	147	23.4%	162	18.6%	4.8
中辺路	250	39.7%	339	38.8%	0.9
大辺路	129	20.5%	161	18.4%	2.1
小辺路	147	23.4%	181	20.7%	2.6
紀伊路	124	19.7%	148	17.0%	2.8
高野参詣道	197	31.3%	267	30.6%	0.7
大峰奥駿道	133	21.1%	157	18.0%	3.2
特にない	121	19.2%	177	20.3%	-1.0
無回答	3	0.5%	3	0.3%	0.1

13) 自宅から現在地までの立寄り先を全て教えてください。【MA】

14) 現在地以後から帰宅までの立寄り予定先を全て教えてください。【MA】

【自宅から現在地までの立寄り先】

	R6	比率
全体	629	100.0%
どこにも立ち寄っていない	127	20.2%
道の駅 紀伊長島マンボウ	151	24.0%
始神テラス	62	9.9%
道の駅 海山	116	18.4%
三重県立熊野古道センター	63	10.0%
夢古道おわせ	27	4.3%
おわせお魚いちば おとと	43	6.8%
鬼ヶ城、鬼ヶ城センター	121	19.2%
獅子岩	89	14.1%
花の窟神社、道の駅 熊野・花の窟	118	18.8%
入鹿温泉、湯ノ口温泉	17	2.7%
丸山千枚田	31	4.9%
道の駅 パーク七里御浜	41	6.5%
道の駅 紀宝町ウミガメ公園	47	7.5%
伊勢神宮(外宮、内宮、おかげ横丁)	69	11.0%
VISON	17	2.7%
道の駅 奥伊勢おおだい	44	7.0%
瀧原宮	23	3.7%
熊野速玉大社	50	7.9%
熊野本宮大社	56	8.9%
熊野那智大社(那智の滝)	53	8.4%
高野山(總本山金剛峯寺)	11	1.7%
その他	41	6.5%
無回答	19	3.0%

【この後の立寄り先】

	R6	比率
全体	629	100.0%
どこにも立ち寄っていない	143	22.7%
道の駅 紀伊長島マンボウ	97	15.4%
始神テラス	50	7.9%
道の駅 海山	64	10.2%
三重県立熊野古道センター	49	7.8%
夢古道おわせ	37	5.9%
おわせお魚いちば おとと	45	7.2%
鬼ヶ城、鬼ヶ城センター	73	11.6%
獅子岩	44	7.0%
花の窟神社、道の駅 熊野・花の窟	65	10.3%
入鹿温泉、湯ノ口温泉	15	2.4%
丸山千枚田	28	4.5%
道の駅 パーク七里御浜	30	4.8%
道の駅 紀宝町ウミガメ公園	32	5.1%
伊勢神宮(外宮、内宮、おかげ横丁)	23	3.7%
VISON	17	2.7%
道の駅 奥伊勢おおだい	25	4.0%
瀧原宮	10	1.6%
熊野速玉大社	69	11.0%
熊野本宮大社	56	8.9%
熊野那智大社(那智の滝)	54	8.6%
高野山(總本山金剛峯寺)	8	1.3%
その他	63	10.0%
無回答	31	4.9%

15) 東紀州地域内で、熊野古道伊勢路までの移動に使用した、主な交通手段について教えてください。【MA】

	R6	比率	R5	比率	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
自家用車	386	61.4%	588	67.4%	-6.0
レンタカー	30	4.8%	58	6.6%	-1.9
JR	211	33.5%	207	23.7%	9.8
貸切バス・観光ツアーバス	36	5.7%	43	4.9%	0.8
高速バス	22	3.5%	19	2.2%	1.3
路線バス	47	7.5%	62	7.1%	0.4
タクシー・ハイヤー	17	2.7%	12	1.4%	1.3
宿泊施設等の送迎バス	17	2.7%	13	1.5%	1.2
その他	14	2.2%	21	2.4%	-0.2
無回答	1	0.2%	5	0.6%	-0.4

16) 熊野古道の『清掃』をはじめとする保全活動や『語り部』などの熊野古道を守り伝える活動やイベントに関心はありますか。【SA】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
関心があり、参加してみたい	149	23.7%	218	25.0%	-1.3
関心はあり、内容を詳しく知りたい	180	28.6%	247	28.3%	0.3
関心はあるが、参加したくない	199	31.6%	285	32.6%	-1.0
関心がない	94	14.9%	112	12.8%	2.1
無回答	7	1.1%	11	1.3%	-0.1

17) 熊野古道伊勢路を訪問した満足度等についてそれぞれ教えてください。（総合満足度、再訪意向、紹介意向）【SA】

【総合満足度】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
大変満足・大変そう思う	305	48.5%	410	47.0%	1.5
満足・そう思う	271	43.1%	366	41.9%	1.2
やや満足・やや思う	31	4.9%	68	7.8%	-2.9
どちらでもない	8	1.3%	12	1.4%	-0.1
やや不満・あまり思わない	1	0.2%	-	-	-
不満・思わない	1	0.2%	-	-	-
大変不満・まったく思わない	-	-	1	0.1%	-
無回答	12	1.9%	16	1.8%	0.1

【再訪意向】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
大変満足・大変そう思う	335	53.3%	457	52.3%	0.9
満足・そう思う	236	37.5%	313	35.9%	1.7
やや満足・やや思う	37	5.9%	62	7.1%	-1.2
どちらでもない	8	1.3%	18	2.1%	-0.8
やや不満・あまり思わない	0	0.0%	2	0.2%	-0.2
不満・思わない	3	0.5%	1	0.1%	0.4
大変不満・まったく思わない	1	0.2%	-	-	-
無回答	9	1.4%	20	2.3%	-0.9

【紹介意向】

	R6	割合	R5	割合	R5からの増減
全体	629	100.0%	873	100.0%	-
大変満足・大変そう思う	297	47.2%	420	48.1%	-0.9
満足・そう思う	237	37.7%	313	35.9%	1.8
やや満足・やや思う	55	8.7%	85	9.7%	-1.0
どちらでもない	26	4.1%	32	3.7%	0.5
やや不満・あまり思わない	0	0.0%	1	0.1%	-0.1
不満・思わない	2	0.3%	1	0.1%	0.2
大変不満・まったく思わない	0	0.0%	-	-	-
無回答	12	1.9%	21	2.4%	-0.5

令和7年度第1回熊野古道協働会議 議事概要

1 日時

令和7年11月4日（火） 10時00分から12時00分まで

2 場所

三重県立熊野古道センター 小ホール（尾鷲市向井12—4）

3 参加者

44名（世話人6名、コーディネーター1名含む）

4 報道機関

1社

5 議事概要

（1）開会

熊野古道協働会議の代表世話人である速水亨氏（速水林業 代表）より開会の挨拶を行った。

（2）議題「熊野古道アクションプログラムの改定について」

配布資料に沿って事務局から説明を行ったのち、参加者から意見を聴取した。

内容は、別紙のとおり。

（3）閉会

熊野古道協働会議の代表世話人である速水亨氏（速水林業 代表）より閉会の挨拶を行った。

《意見の概要》

①誘客促進

- ・世界遺産登録 20 周年を機に案内看板などの整備が進み、また、事業を通じて学びも得られた。
- ・インバウンド増加に伴って、将来的にオーバーツーリズムへの懸念がある。外国人受入のあり方は話し合うべきである。
- ・中辺路では、共通巡礼手帳の取組や荷物搬送サービスがあり、伊勢路にもあるとよい。
- ・経営するホテルは、土日は宿泊客がいないが、夢古道おわせはこの土日だけで 200 名来客した。このお客様を古道にどうつなげていくかが課題。

②保全活動・文化財保護

- ・保全活動の担い手不足が深刻で、無償ボランティアでは限界があり、有償化の検討も必要。
- ・保全団体の支援体制に地域差があり、伊勢路全域での支援体制が必要である。
- ・獣害（イノシシによる石畳の掘り起こし）が深刻で、保全方法の模索が必要である。
- ・クマの出没による保全活動の懸念があることや、次世代への保全技術の継承が課題である。
- ・文化財保護の観点から、どこまでが保全活動なのかの境界線を、行政で整備してほしい。

③次世代育成

- ・若者が熊野古道に関わる仕組みづくり（例えば、ゲストハウス、インストラクターで生計を立てるなど）や、企業や団体の保全活動の受入には負担金をいただけると有難い。
- ・今の子どもたちや保護者たちは、熊野古道に対する意識が薄れている気がするため、意識醸成に取り組む必要がある。

④観光インフラ整備

- ・伊勢路の踏破者の増加が期待される一方で、宿泊施設の不足が課題である。
- ・空き家バンクを活用して民泊を始める際に、手続きをワンストップができる窓口があるとよい。
- ・障がい者や高齢者にも優しい熊野古道があるとよい。浜街道などはよいのではないか。

⑤本質的価値の発信

- ・熊野古道伊勢路の江戸時代の歴史も含めた情報発信が必要である。
- ・「熊野参詣道伊勢路」の呼称を用いてはどうか。
- ・県教委の調査報告書は大変参考になった。

「活動指針と具体的な取組」について(案)

資料5

1、目標について

- 目標1 値値に気づく
- 目標2 守り伝える
- 目標3 伊勢路を結ぶ、地域を活かす

2、テーマおよび取組方向について

3、追加や強化が必要な取組について

目標1 値値に気づく

テーマ	取組方向	追加や強化が必要な取組	活動事例（現状）	参考
(1) 本質の追求	研究の継続と発信	【強化】世界遺産の本質的価値を伝える情報発信や講演会等の開催の充実	古道にまつわる伝承・史跡等の発掘、研究 大学等との連携 フォーラム・シンポジウム等の開催 都市部での講座の開催 研究の進展による発信情報の更新・共有 世界遺産登録20周年に向けて「伊勢路の強みを維持し、高め、伝える」をメインテーマに取組を立案 スペイン・バスク自治州との覚書の締結を生かしたシンポジウムの開催	◎20周年を契機に世界遺産の価値を伝える取組は一定進んだとの評価がある。 一方で、世界遺産登録から20年以上経過しており、本質的価値を再認識すべきとの意見がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 32% ・変化なし 35% ・やや後退した、後退した 7% ・わからない、未回答 26% ●関係者アンケート意見(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・20周年で周知が進んだ。 ・追加登録を考える上でも世界遺産の価値を学ぶ機会が必要 ・次の10年に向けて「価値に気づく」ための取組強化が必要 ・本質的価値の解釈が正しく認識されていると感じられない。 ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産を再認識する機会を設けてはどうか ●来訪者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢路を訪問したきっかけ(複数回答) 世界遺産だから 32%、巡礼・参拝のため 7%
(2) 地域活動や社会教育	地域住民の意識・関心の向上	【強化】地域住民が、熊野古道について学習する機会や、ウォーキングイベント等に参加する機会の確保	地域住民対象の古道ウォーク・保全清掃活動の開催 子どもたちが古道案内人を担う古道ウォークの開催 講座、勉強会や交流会の開催	◎地域活用や社会教育の取組に一定の前進はみられる。一方で地域住民が学ぶ機会の確保やウォーキングイベントに参加できる機会の確保が必要との意見がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 50% ・変化なし 27% ・やや後退した、後退した 10% ・わからない、未回答 11% ●関係者アンケート意見(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が価値に気づくことで、次世代にも繋がっていくと考える ・熊野古道についての価値や学ぶ機会がほとんどない ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・地元の方向けにもウォーキングイベントを実施し古道を知ってもらうことが必要
(3) 学校教育	学校教育の充実	【強化】世界遺産の登録地域でない市町も含め、子どもたちが熊野古道について学習することのできる機会の充実	学校教育での古道を学ぶ機会の充実 学校教育の現場と語り部の会や保存会との連携強化 修学旅行や遠足誘致の働きかけ 子ども向けワークショップの企画 国内外の取組の参照	◎地元の子どもたちや保護者は熊野古道に対する意識が薄れているとの意見や、世界遺産でない市町を含めて学習機会の提供を行うべきとの意見がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 27% ・変化なし 27% ・やや後退した、後退した 18% ・わからない、未回答 28% ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産ではない市町も含めて学習機会を提供すべき ●熊野古道協働会議(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者たちは、熊野古道に対する意識が薄れている気がする。
(4) 情報発信	本質的な価値の発信		インターネットを活用した本質的な価値の発信 出版物による情報発信	◎20周年を契機に世界遺産の価値を伝える取組は一定進んだとの評価があるが、一方で「変化なし」との評価も約4割ある。 <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 35% ・変化なし 41% ・やや後退した、後退した 4% ・わからない、未回答 20%
(5) 拠点施設の活用	拠点施設での情報発信と周辺施設との連携		熊野古道センターでの情報・資料収集の継続 熊野古道センターでの古道や地域の県外への情報発信強化 周辺地域や熊野古道関連施設との連携・協力強化	◎拠点施設の活用は一定前進したとの評価がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 40% ・変化なし 26% ・やや後退した、後退した 5% ・わからない、未回答 29%

「活動指針と具体的な取組」について(案)

目標2 守り伝える

テーマ	取組方向	追加や強化が必要な取組	活動事例（現状）	参考
(1) 守り伝える体制	(共通)	<p>【強化】 ・保全活動の担い手確保のため、保全団体間で連携し活動を支援する仕組みづくり ・保全活動に必要な財源確保に係る仕組みづくり</p>	持続可能な保全体制を分科会により検討	◎保全団体の高齢化に伴う担い手確保は喫緊の課題となっている。また、ボランティアでの活動が成り立たなくなっているとの意見や、地域外からの担い手確保が必要、財源確保が必要などの意見がある。
	保全状況の見回り・情報提供		継続的な見回りの実施	●関係者アンケート（概要） ・前進した、やや前進した 36% ・変化なし 30% ・やや後退した、後退した 15% ・わからない、未回答 19%
	関係団体の担い手確保		保全状況の情報集約・提供	●関係者アンケート意見（概要） ・若い世代が入会してこなく組織が弱体化する一方 ・地域外からも担い手確保が必要 ・現状維持も厳しいが、今よりも一步前進させる必要がある
	関係団体間の連携		地域住民への守り伝える活動の周知・啓発	●関係者ヒアリング（概要） ・保全団体の高齢化に伴う活動の低減 ・保全活動に係る財源確保が必要 ・過疎化・高齢化が保全活動にも影響が出ている ・保全団体ごとに抱えている課題は異なる ・サポートーズクラブから自主的な広がりが見いただせない
	地域内外からの支援体制づくり		地域住民への保全活動参加の呼びかけ	●熊野古道協働会議（概要） ・ボランティアでの保全活動が成り立たなくなってきた
	保全活動に係る資金確保		担い手養成機会の拡充（未養成エリア含む）	
			保存会や語り部の会等の団体間の連携強化	
			熊野古道サポートーズクラブの活動の推進	
			県内企業との連携、保全支援の呼びかけ	
			地域外の保全団体との連携強化	
(2) 啓発活動	活動の顕彰	<p>既存活動が着実に評価され、顕彰される取組</p>	保全協力企業・団体への還元（名称のHPへの掲載等）	◎来訪者アンケートでは、熊野古道の保全や語り部の活動に参加してみたい、内容を詳しく知りたいという意見が多い。
	知る・体験する機会の充実		道普請ウォークのプログラム化	●関係者アンケート（概要） ・前進した、やや前進した 35% ・変化なし 34% ・やや後退した、後退した 8% ・わからない、未回答 23%
			学校との連携	●関係者アンケート意見（概要） ・語り部養成講座により新規人材の発掘や世代交代が進んでいる団体もある
(3) 文化財保護	文化財保護に関する継続的な取組	<p>既存活動が着実に評価され、顕彰される取組</p>	クラウドファンディングなどあらゆる資金確保策を検討・導入	●来訪者アンケート（概要） ・熊野古道の保全や語り部の活動に参加してみたい、内容を詳しく知りたい 52%
			古道の清掃・美化活動の開催	
			文化財の継続的な保存・管理	◎文化財の保存にむけて関係者が連携し取り組む必要があるとの意見がある。
(4) 文化的景観の保全	知識・理解の向上	<p>【強化】 文化的景観の保全に必要な情報収集や啓発を行うため、和歌山県、奈良県や、地元市町、関係機関との連携を強化</p>	世界遺産追加登録に向けた未登録文化財の発見、保存、活用の推進	●関係者アンケート（概要） ・前進した、やや前進した 31% ・変化なし 38% ・やや後退した、後退した 9% ・わからない、未回答 22%
			災害復旧対応経験の蓄積・活用	●関係者アンケート意見（概要） ・行政や企業、住民も含めて三重県の文化を守るという方にシフトしないと伊勢路特有の文化は守れないのではないか。
			有識者を招いたセミナーの開催	●関係者ヒアリング（概要） ・追加登録に向けて地元関係者との連携強化が必要
			他の世界遺産登録地域との情報交換・交流・連携強化	●熊野古道協働会議（概要） ・追加登録をAPでも方向性を示してほしい ・行政が保全活動の技術指導をしてほしい ・保全活動の技術の伝承が必要
			熊野川流域景観計画による景観保全	◎古道周辺では、発電設備の設置などにより文化的景観に影響を与えるとの意見がある。
				●関係者アンケート（概要） ・前進した、やや前進した 33% ・変化なし 34% ・やや後退した、後退した 7% ・わからない、未回答 26%
				●関係者アンケート意見（概要） ・古道周辺では、風力発電設備や太陽光発電設備が増え、地域特有の文化的景観を破壊している

「活動指針と具体的な取組」について(案)

目標3 伊勢路を結ぶ、地域を活かす

テーマ	取組方向	追加や強化が必要な取組	活動事例（現状）	参考
(1)	古道沿いの環境整備	統一感のある環境整備・情報提供	<p>【強化】 案内標識の整備やトイレの洋式化などの観光インフラの整備が一層進むよう、県・市町・関係団体が連携した整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一感のある案内板・道標の設置 「案内等表記ガイドライン」(仮称)の策定 トイレや休憩施設等の設置場所の周知 トイレ等の整備・改修の検討 伊勢路全体のマップ作成 伊勢路全体での情報提供の強化 パリア情報の調査及び調査結果を踏まえた対応 	<p>◎古道沿いの環境整備は一定の前進は伺えるものの、トイレの老朽化・洋式化への対応が必要との関係者の意見や、来訪者アンケートでは案内標識の不足や内容が分かりにくいといった意見、パリアフリーに係る情報不足等の意見もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 49% ・変化なし 35% ・やや後退した、後退した 5% ・わからない、未回答 11% ●関係者アンケート意見(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの洋式化・パリアフリー化が進んでいると感じるが数が少ない。 ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの老朽化、洋式化への対応が必要 ・パリアフリーに係る情報提供が不足している ・古道に通じる林道の整備が不足している ●来訪者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・案内標識が不足している、内容が分かりにくい ●熊野古道協働会議(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・20周年で路面シート、看板の整備が進んだ
(2)	情報発信	効果的な情報発信 伝承や文化の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の体系化 SNSなどを活用した相互交流の推進 スマートフォンアプリ(マップ)の積極的活用 古道にまつわる文化財や伝承などのパンフレット作成 史跡等の説明版の設置 	<p>◎情報発信の取組は一定の前進は伺える。今後、SNSなどによる情報発信はより重要性を増すと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 46% ・変化なし 33% ・やや後退した、後退した 4% ・わからない、未回答 17% ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・DXやAIを生かした情報発信の取組を強化 ●来訪者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・訪問の参考にした情報源(複数回答) HPやWebサイト 63.3% 観光パンフレット・マップ 43.7%
(3)	踏破の推進	通して歩く取組の推進 歩く旅人の交流促進	<p>【強化】 伊勢路を通して歩くための情報発信の充実や、県・市町・関係団体が連携した誘客の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏破向けの情報発信の強化 踏破ウォークイベント等によるPR 巡礼の道としての情報発信 スタンプラリー等踏破の仕掛けづくり 「歩き旅」の途中で交流できるスペースの拡大 	<p>◎伊勢路を踏破する来訪者は増加傾向にあり、伊勢路を通して歩くための環境整備や情報発信の充実が必要であると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 49% ・変化なし 27% ・やや後退した、後退した 4% ・わからない、未回答 20% ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢路を踏破できるしくみづくりが必要 ●来訪者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢路を訪問したきっかけ(複数回答) 伊勢路を踏破したい 30% ●熊野古道協働会議(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢路の踏破者は外国人も含めてもっと増えていくと思っており、日本人にも外国人にも踏破してもらいたいと思う
(4)	地域の賑わい創出	周遊性・滞在性の向上 地域資源の活用による商品づくり おもてなしの醸成 宿泊施設、休息施設の充実 交通アクセス、二次交通等の充実 海外に向けた情報発信と受入態勢整備	<p>【強化】 ・インバウンドを含む誘客促進に向けた、多言語の情報発信や受入環境の整備促進 ・古道への利便性向上のため、アクセスガイドの整備、WEBサイト等での情報発信、周遊しやすい環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歩き旅」+周遊につながる周辺スポットや体験プログラムを情報発信 伊勢路ならではの土産物の開発と販売促進 観光事業者を対象としたセミナーの開催 地域住民のおもてなしの意識啓発 「よい旅を！」の声かけ運動 「歩き旅」に適した宿泊・休息施設の増大とPR 宿泊施設での「歩き旅」案内所機能の充実 交通アクセスに関する情報発信 交通アクセス・二次交通の充実 駐車場や手荷物預かり所の充実 外国語を併記した案内板の整備 外国語のホームページの拡充 外国語パンフレットの拡充 外国語対応の語り部育成 観光案内所等での外国語対応の人材育成 キャッシュレス決済の拡充 	<p>◎地域の賑わい創出に係る取組は、一定の前進は伺えるが、インバウンドの受入について、英語対応の案内や案内標識などが必要との意見がある。 また、来訪者アンケートでは古道までの移動手段が不便・わかりにくいなど、二次交通の課題についての意見がある。 荷物搬送については、中辺路では既に取り組まれているが、伊勢路においても一部サービスを開始した事業者もみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 51% ・変化なし 30% ・やや後退した、後退した 7% ・わからない、未回答 12% ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設、タクシー、荷物配達などのサービス促進、モデル旅程の作成サポート窓口の整備が必要 ・インバウンド受入のための地元に詳しい英語対応スタッフの雇用、維持が必要 ・地元の英語対応ガイドの育成 ・インバウンドゲスト向けの統一された案内標識、充実した地図などの整備が必要 ●来訪者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢路を訪れて不満に感じたこと改善してほしいこと(複数回答) 宿泊施設が少ない 12.6% 古道までの移動手段が不便・わかりにくい 26.9% 古道までの駐車場が少ない・わかりにくい 20.5% ●熊野古道協働会議(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・中辺路はオーバーツーリズムであることをふまえ、インバウンド受入のありかたを話し合う必要がある ・尾鷲観光物産協会で荷物輸送サービスを始めた。 ・和歌山とカミーノとの間には共通巡礼手帳がある。
(5)	地域間連携	伊勢から東紀州地域までの連携強化 三県の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 関係者間の会議の継続 和歌山県、奈良県との連携 特に未登録文化財の世界遺産追加登録に向けた和歌山県との連携 	<p>◎和歌山・奈良との連携が必要との意見が複数ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係者アンケート(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前進した、やや前進した 34% ・変化なし 38% ・やや後退した、後退した 9% ・わからない、未回答 19% ●関係者ヒアリング(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・紀伊半島の県境を越えた連携が必要 ・インバウンドが三重県に来てもらえるように三県の連携強化が必要 ・観光客が多い和歌山県との連携が必要